

図46 18・19・25・26・36・38・41・48・49・52・53・55号 土層断面図

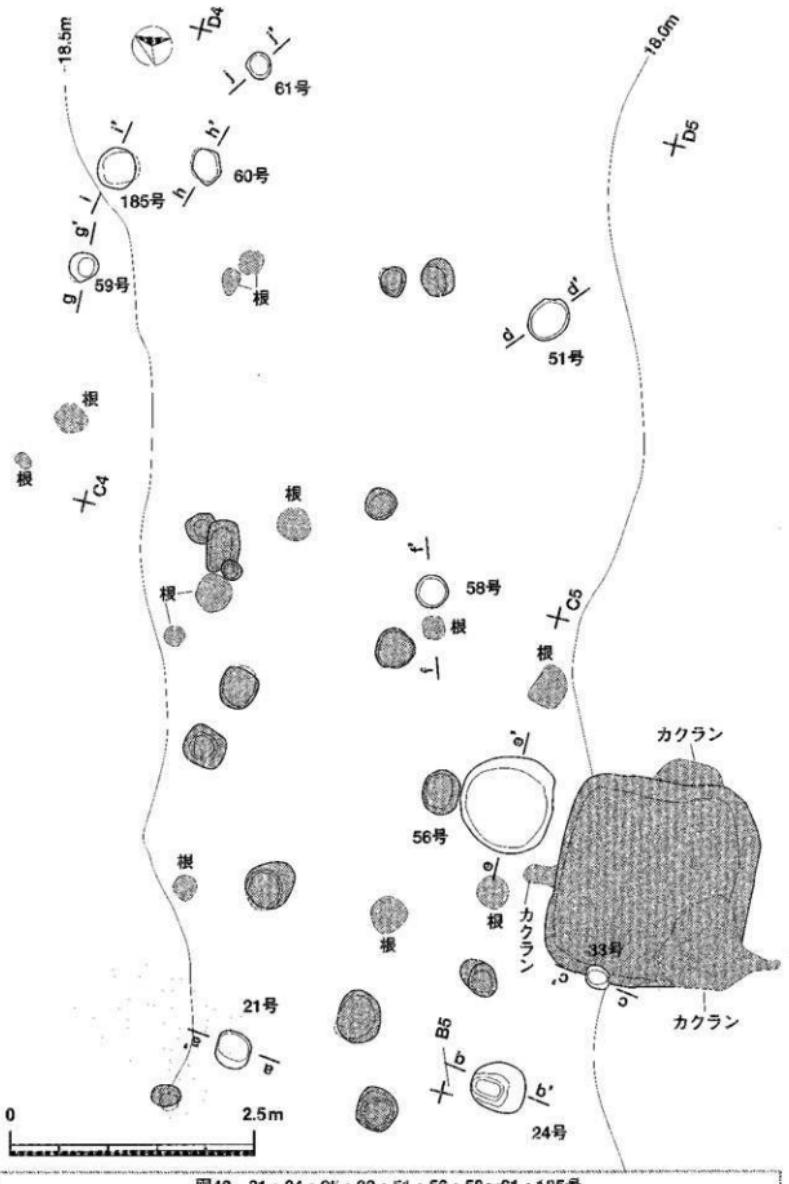
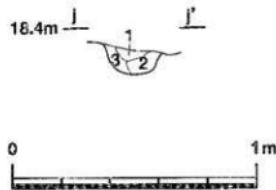


図48 21・24・25・33・51・56・58～61・185号



61号

- 1 黒褐色 [10YR2/2] ロームブロック少存、炭化物微量。しまり良  
2 黒褐色 [10YR2/2] ロームブロック混入、炭化物微量。  
3 棕色 [10YR4/6] 砂部色少存、炭化物微量。しまり強

図50 61号 土層断面図

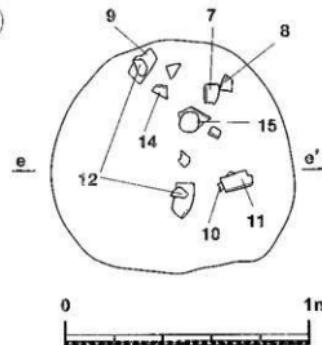


図51 56号 遺物出土状況



図52 24号 出土遺物

表15 24・56号 出土遺物觀察表

No.	種別	器形	部位	通稱	層位	年 代	型式	備 考
1	繩文土器	深鉢形土器	胴	24号	2層	中期末葉～後期初頭	—	
2	繩文土器	深鉢形土器	胴	24号	2層	中期末葉～後期初頭	—	1と同一個体
3	繩文土器	深鉢形土器	胴	24号	2層	中期末葉～後期初頭	—	1と同一個体か？
4	繩文土器	深鉢形土器	胴	24号	2層	中期末葉～後期初頭	—	1と同一個体か？
5	繩文土器	深鉢形土器	胴	24号	2層	中期末葉～後期初頭	—	1と同一個体
6	繩文土器	深鉢形土器	胴	24号	2層	中期末葉～後期初頭	—	1と同一個体か？
7	繩文土器	深鉢形土器	肩～胴	56号	1層	中期末葉～後期初頭	—	
8	繩文土器	深鉢形土器	胴	56号	1層	中期末葉～後期初頭	—	7と同一個体
9	繩文土器	深鉢形土器	肩	56号	1層	中期末葉～後期初頭	—	7と同一個体
10	繩文土器	深鉢形土器	胴	56号	1層	中期末葉～後期初頭	—	7と同一個体
11	繩文土器	深鉢形土器	胴	56号	1層	中期末葉～後期初頭	—	7と同一個体
12	繩文土器	深鉢形土器	胴	56号	1層	中期末葉～後期初頭	—	7と同一個体
13	繩文土器	深鉢形土器	胴	56号	1層	中期末葉～後期初頭	—	7と同一個体
14	繩文土器	深鉢形土器	胴	56号	1層	中期末葉～後期初頭	—	7と同一個体
15	繩文土器	深鉢形土器	底	56号	1層	中期末葉～後期初頭	—	7と同一個体か？

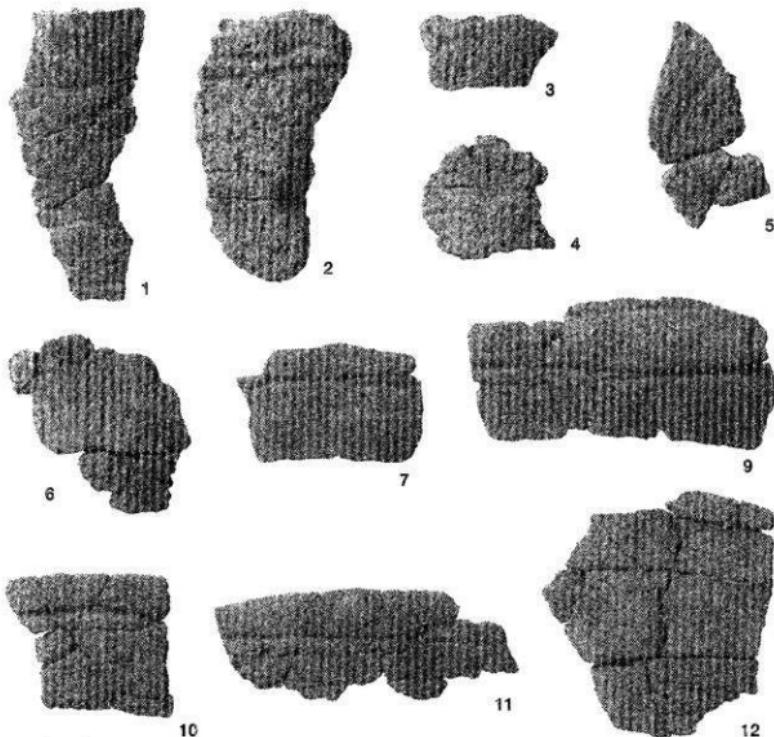


写真35 24・56号 出土遺物

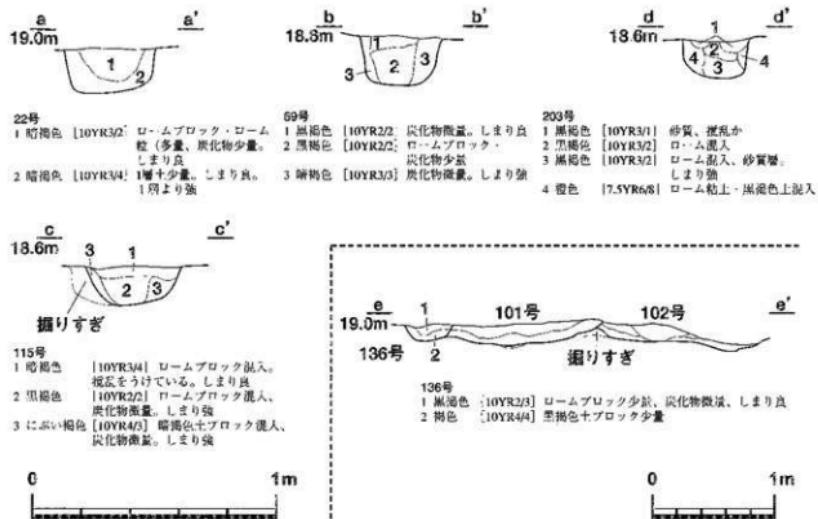


図55 22・69・115・136・203号 土層断面図

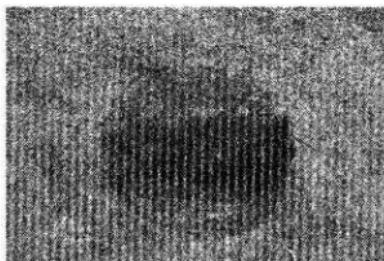


写真36 22号（南から）

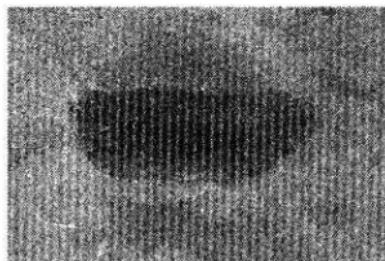


写真37 69号（南から）

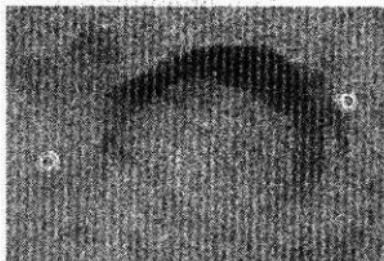


写真38 115号（北から）

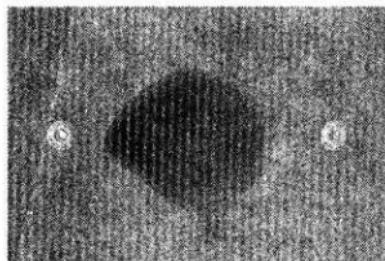


写真39 203号（東から）

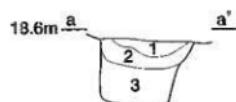
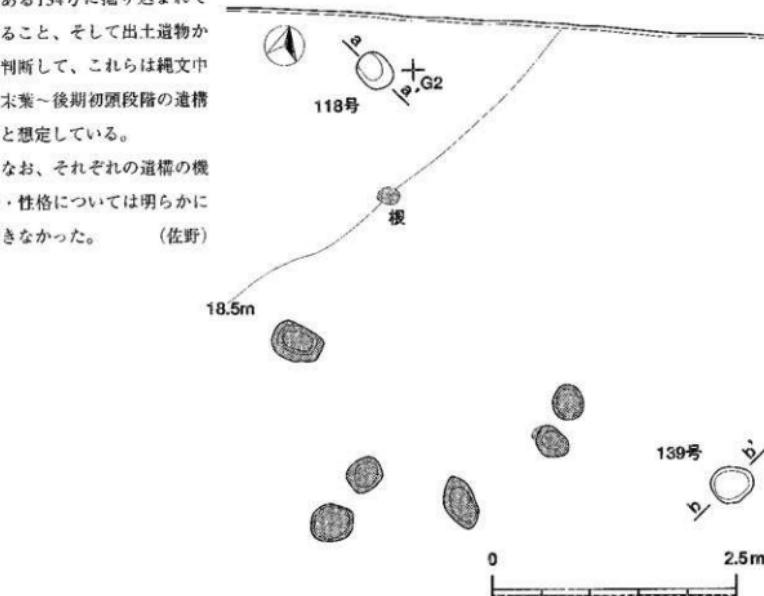
#### 4-4-8 34・118・129・133・139・154・161～163・224号

調査区西側中央部付近に位置する遺構群を一括してここで取り扱った。遺物は34・129・224号より中期末葉～後期初頭の土器片が出土している。

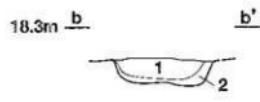
これらの遺構は、覆土の状況がほぼ類似していることからほぼ同一段階のものと想定している。34号が平安時代の炭窯跡（30号）に上部を掘り込まれているほか、また133号が純文後期初頭段階の遺構である134号に掘り込まれて

いること、そして出土遺物から判断して、これらは純文中期末葉～後期初頭段階の遺構群と想定している。

なお、それぞれの遺構の機能・性格については明らかにできなかった。  
（佐野）



118号  
1 呼色 [10YR3/3] ロームブロック多量、炭化物微量。しまり良  
2 極化 [10YR4/4] 土上ブロック中量、炭化物微弱。しまり良  
3 深色 [10YR4/4] 灰色層か



139号  
1 呼色 [10YR3/3] ロームブロック中量、炭化物・灰上粒微量。しまり良  
2 深色 [10YR4/6] 灰色土ブロック少量。固くしまる

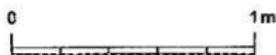


図57 118・139号

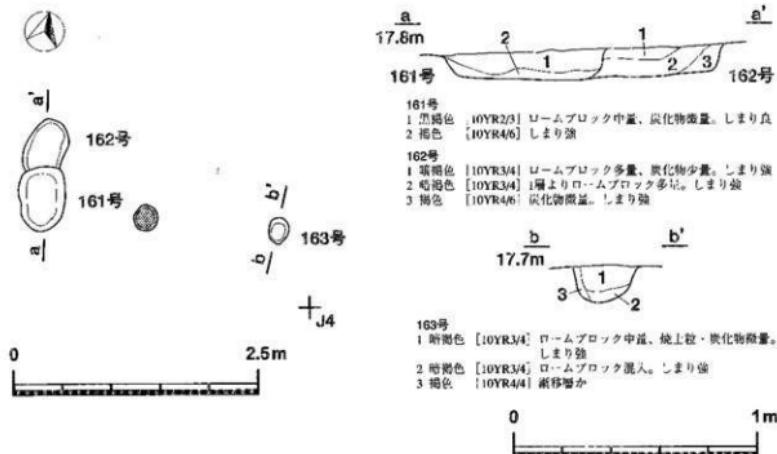


図59 161～163号

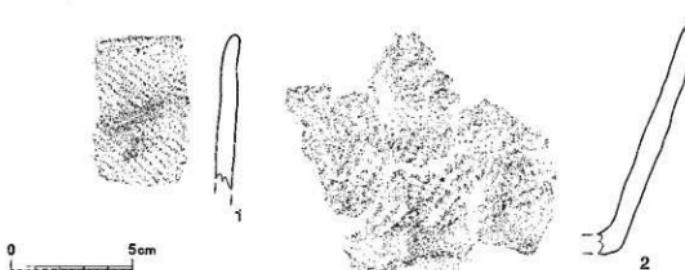


図60 129・224号 出土遺物

表17 129・224号 出土遺物観察表

No.	種別	器形	部位	遺構	層位	年代	型式	備考
1	繩文土器	深鉢形土器	口縁	129号	1層	中期末葉～後期初頭	—	—
2	繩文土器	深鉢形土器	腹～底	224号	1層	中期末葉～後期初頭	—	—

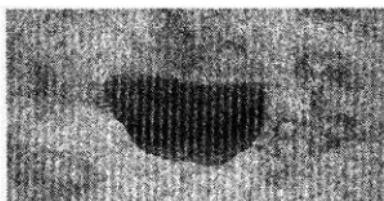


写真42 34号（西から）

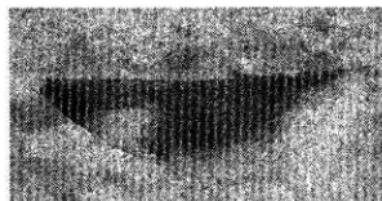


写真43 129号（南から）

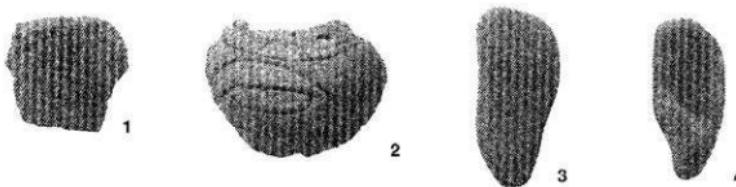


写真44 35号 出土遺物

4-4-10 39・40・54・57・62・63・65・68・70・113・169～171・

197・200～202・204・205・207号

調査区西部のC3～D4 グリッド付近に位置する遺構群である。土坑・ピットが混在し、それぞれの遺構間の詳細な関連性については不明であるが、ここに取りあげた遺構群は、覆土の色調やしまり具合に共通点が多いことから、同段階の近隣に位置する遺構群として一括して取り扱った。これらの遺構からの出土遺物の年代は後期初頭を下限としているが、113号が後期初頭段階の遺構（98号）を掘り込んでいるため、これらの遺構群の年代を縄文後期初頭～前葉と判断している。

70号・170号より後期初頭段階の比較的大振りな土器が出土しており、特に70号については、図69-6に示す深鉢形土器が覆土1層中に正立した状況で出土したことを確認しているため、「土器埋設遺構（埋設土器遺構）」の可能性が考えられた。

このほかの遺構については、上層断面観察の結果、柱穴跡と思われるものが多い。なお、57号は54号の付属施設の可能性がある。またほかの遺構群に囲まれるように位置する204号は覆土に比熱したような状況がみられた。204号は遺構検出の際、その周囲に焼土の分布が認められたため、炉跡ではないかとも推測された。再三述べるように今回の調査区は後世の植林等による搅乱・削平等を受けており、これらの遺構の多くは上部構造を失った堅穴住居跡に関連するものではないかとも考えられたが、北側及び西側にこれらと関連する遺構がないため断定はできず、これらの遺構の機能・性格については総じて不明とせざるを得なかった。

（佐野）

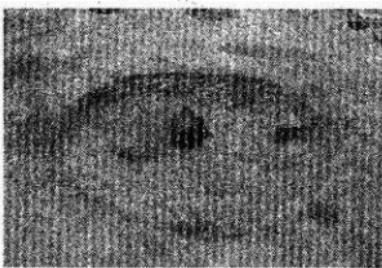


写真45 54号（東から）

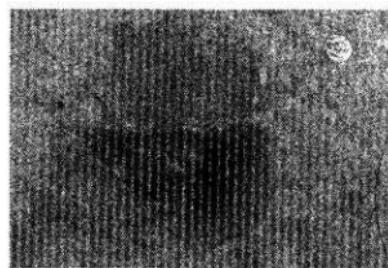


写真46 70号（南から）

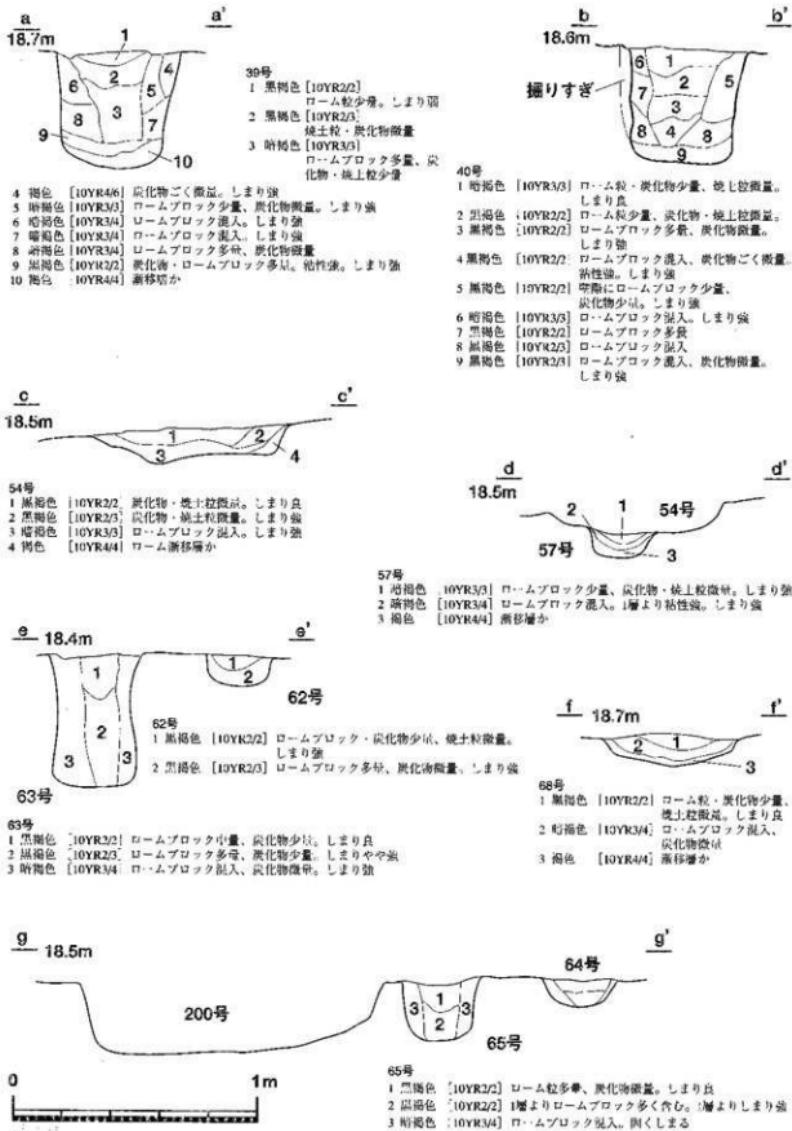


図64 39・40・54・57・62・63・65・68号 土層断面図

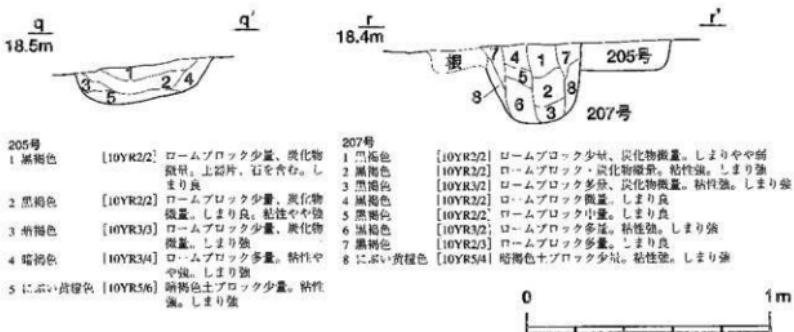


図66 205・207号 土層断面図

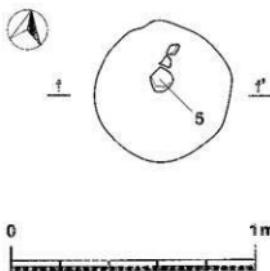


図67 68号遺物 出土状況

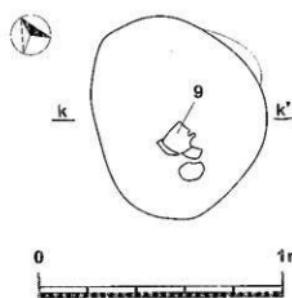


図68 170号 遺物出土状況



写真47 68号 遺物出土状況（西から）



写真48 170号 遺物出土状況（南から）

表19 40・54・68・70・113・170号 出土遺物觀察表

No.	種別	器形	部位	遺構	層位	年 代	型式	備 考
1	縄文土器	深鉢形土器	胴	40号	1層	中期末葉～後期初頭	—	
2	縄文土器	深鉢形土器	口縁	54号	1層	中期末葉～後期初頭	—	
3	縄文土器	深鉢形土器	口縁	54号	1層	中期末葉～後期初頭	—	2と同じ
4	縄文土器	深鉢形土器	口縁	54号	2層	中期末葉～後期初頭	—	
5	縄文土器	深鉢形土器	底	68号	1層	中期末葉～後期初頭	—	網代底
6	縄文土器	深鉢形土器	口縁～胴	70号	1層	中期末葉～後期初頭	—	弱波状口縁、突起4
7	縄文土器	深鉢形土器	口縁	70号	一括	中期末葉～後期初頭	—	
8	縄文土器	深鉢形土器	口縁	113号	3層	中期末葉～後期初頭	—	
9	縄文土器	深鉢形土器	口縁～底	170号	2層	中期末葉～後期初頭	—	遺存は1/3程度

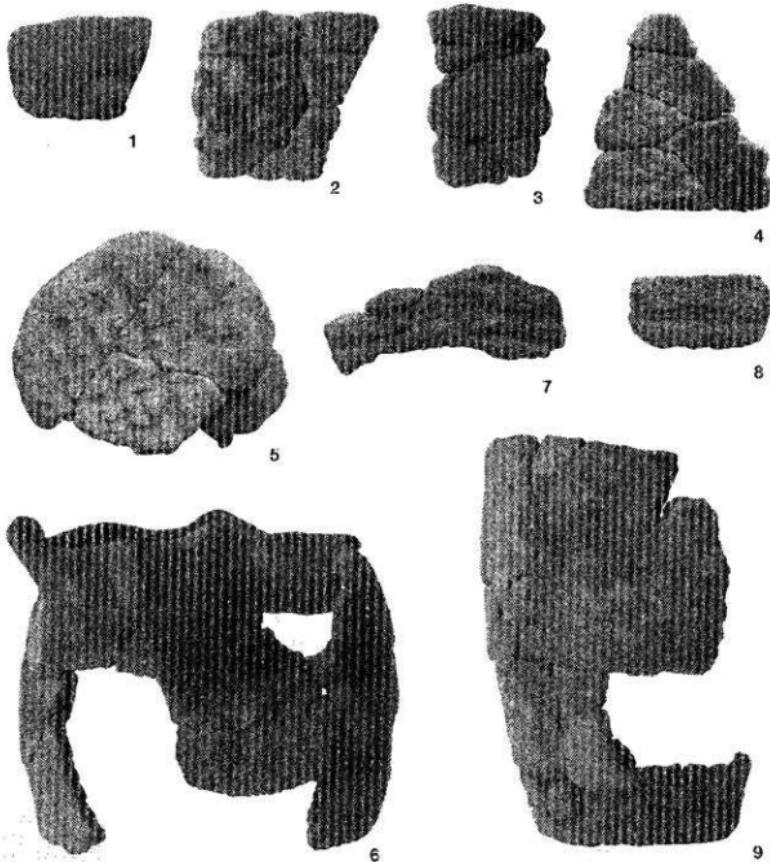
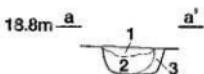


写真49 40・54・68・70・113・170号 出土遺物

222号

調査区西部のD1～D3グリッド付近に位置するピット群である。遺物は、199号より後期初頭の上器細片等が出土している。これらの遺構がⅢ層掘削中に確認されたことと出土遺物から、縄文後期初頭段階の遺構群と推測している。

(佐野)

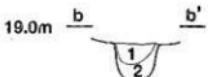


94号

- 1 黒褐色 [10YR2/3] ロームブロック少量、炭化物微量。しまり良
- 2 黒褐色 [10YR2/3] ロームブロック多量。しまり強
- 3 棕色 [10YR4/4] ローム層移層か



根 根



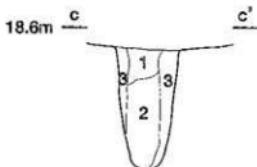
189号

- 1 暗褐色 [10YR3/3] ロームブロック多量、炭化物微量。しまり然
- 2 棕色 [10YR4/6] 晴開色土ブロック少量、炭化物微量。しまり強



a ○ a'

94号

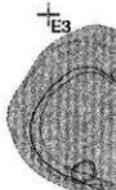


222号

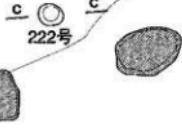
- 1 明褐色 [10YR3/3] ロームブロック少量、炭化物微量。しまり良
- 2 听褐色 [10YR3/3] 土くじら、1層より粘性強
- 3 暗褐色 [10YR3/4] ロームブロック混入、炭化物微量。しまり強



根



+ E3



222号

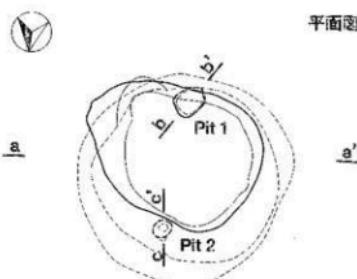
18.5m

0

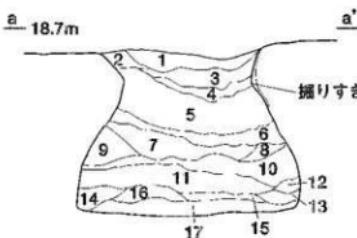
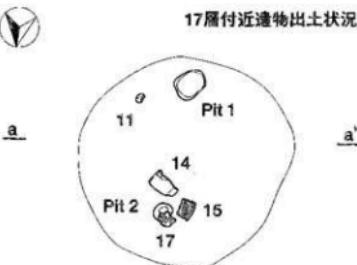
2.5m

図71 94・189・199・222号

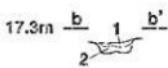
平面図



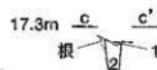
17層付近遺物出土状況



(佐野)



100号-Pit 1  
1 黒色 [10YR4/4] 液。床面底上の黒色上少泥混入。  
しまり強  
2 黒色 [10YR4/6] 液。しまり強



100号-Pit 2  
1 黒褐色 [10YR2/3] 液。地山の上が小ブロック状に少量。  
しまり強  
2 黒色 [10YR4/6] 液。しまり強

0 1m



- |      |               |  |
|------|---------------|--|
| 100号 |               |  |
| 1    | 黒褐色 [10YR2/3] | コームブロック・白色バニス少量、炭化物微量。<br>土器片含む。しまり良         |
| 2    | 黒褐色 [10YR2/3] | コームブロック少量、炭化物微量。しまり良                         |
| 3    | 黒色 [10YR2/1]  | コーム・灰・炭化物微量。白色バニスごく微量。<br>土器片含む。しまり強         |
| 4    | 黒褐色 [10YR2/2] | コーム灰中量、炭化物微量                                 |
| 5    | 空褐色 [10YR2/3] | 砂質シルト。ロームブロック多量、炭化物微量。<br>白色混入・赤色粒子ごく微量。しまり強 |
| 6    | 褐色 [10YR4/6]  | 砂質シルト。黒褐色土ブロック中量、炭化物少量                       |
| 7    | 空褐色 [10YR2/2] | 炭化物微量  |
| 8    | 黒褐色 [10YR2/2] | ロームブロック多量                                    |
| 9    | 黒褐色 [10YR2/3] | 砂質シルト。ロームブロック中量                              |
| 10   | 空褐色 [10YR2/3] | 砂質シルト。ロームブロック中量、炭化物少量                        |
| 11   | 黒褐色 [10YR2/3] | ロームブロック・炭化物少量。土器片含む。しまり強                     |
| 12   | 褐色 [10YR4/4]  | 砂質シルト。黒褐色土。しまり強                              |
| 13   | 出褐色 [10YR2/3] |  |
| 14   | 黒褐色 [10YR2/3] |  |
| 15   | 褐色 [10YR4/6]  | 黒褐色土ブロック少量、炭化物微量。しまり強                        |
| 16   | 黒褐色 [10YR2/3] | ロームブロック中量                                    |
| 17   | 黒色 [10YR2/1]  | ローム・灰・炭化物微量。白色強                              |

図74 100号

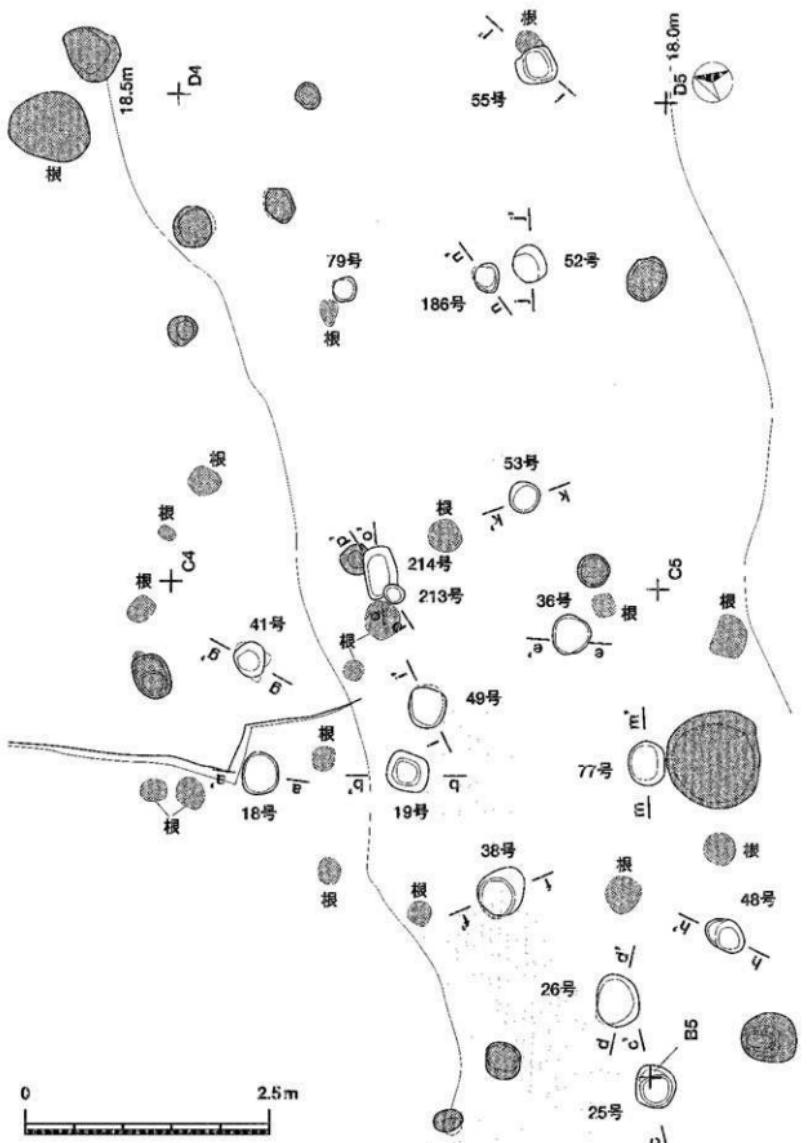


図45 18・19・25・26・36・38・41・48・49・52・53・55・57・77・79・186・213・214号

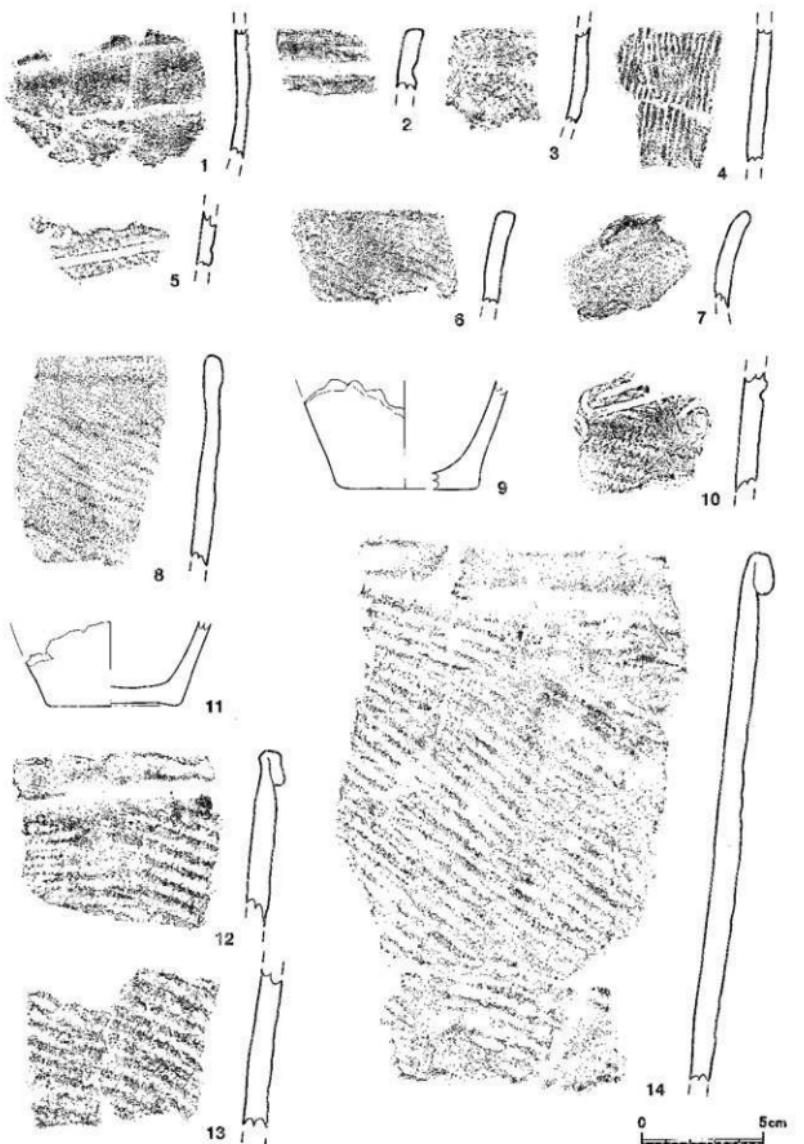


图75 100号 出土遗物①

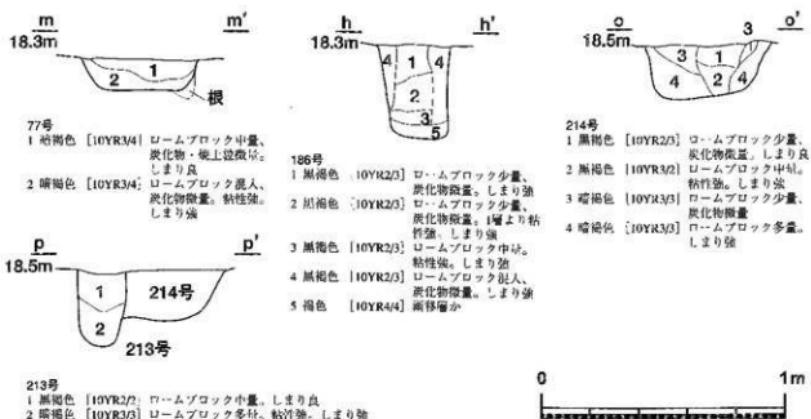


図47 77・186・213・214号 土層断面図

#### 4-4-5 21・24・33・51・56・58~61・185号

調査区西南部のB4~C4 グリッド付近の、地山標高18.5~18m付近に位置する遺構群である。24・51・56・60・185号より純文後期初頭を下限とする上器が出土しており、これらの遺構群を純文後期初頭段階の遺構群と捉えている。

56号以外の遺構はピットか小規模な土坑であるが、56号は径1mほどの不整円形の平面形状を呈する土坑である。1~2層より中期末葉~後期初頭段階の大振りな土器片などが出土している。土坑蓋などの機能を想定したが、焼土や骨片など、覆土や周囲にこのことを積極的に肯定する要素は見受けられず、遺構の機能・性格は不明である。

56号とそれ以外の遺構の覆土がほぼ類似しているため、同じ段階の遺構として取り扱っているが、56号とそれ以外の遺構の関係、それぞれの遺構の機能・性格、遺構間の相関関係は不明である。(佐野)

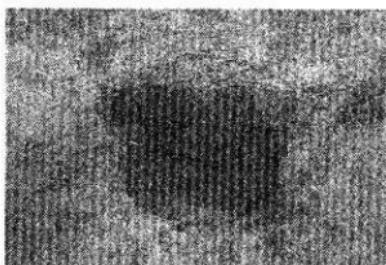


写真33 33号(東から)

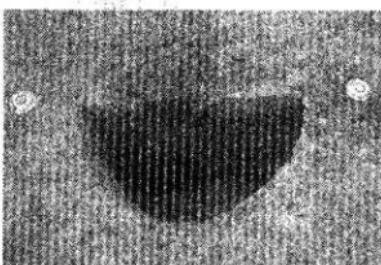


写真34 185号(南から)

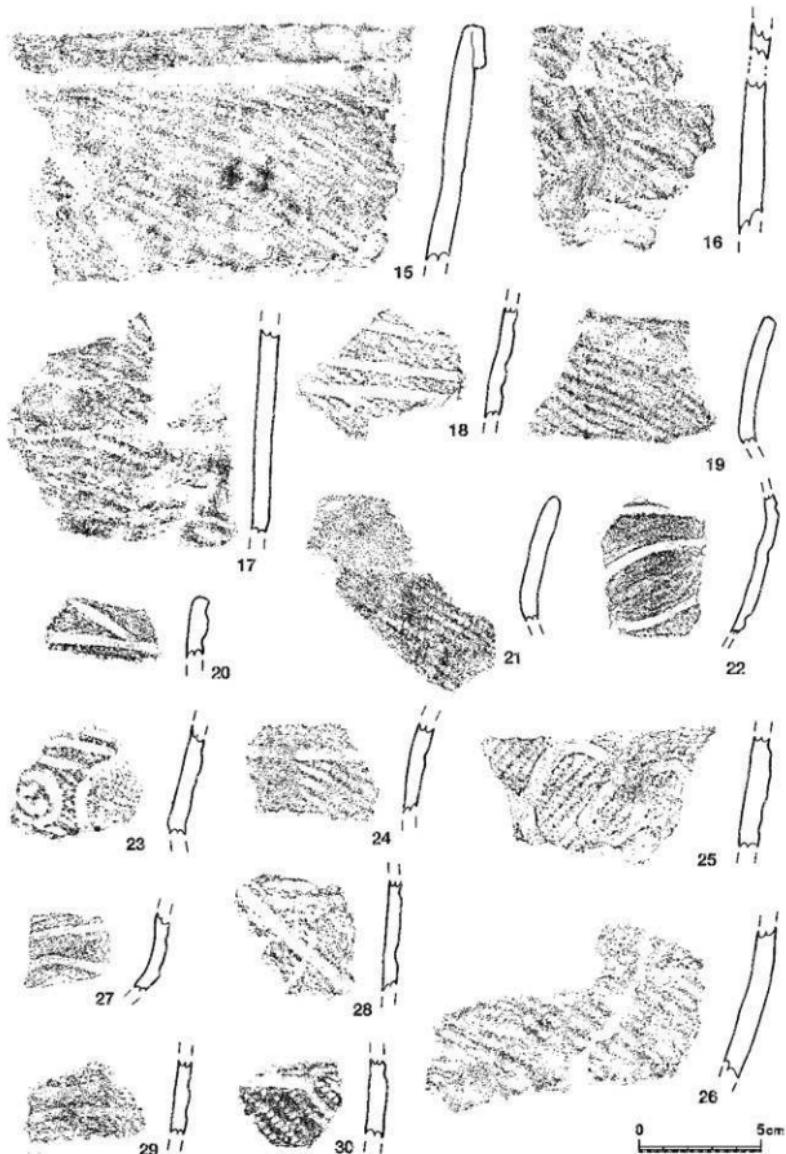
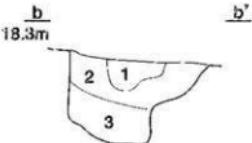


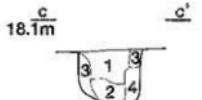
図76 100号 出土遺物②



21号  
1 黒褐色 [10YR2/2] ロームブロック・ローム粒中量、炭化物微量。  
2 にぶい黄褐色 [10YR5/4] 喀色土ブロック多量。



24号  
1 黒褐色 [10YR3/2] 喀色土中量、炭化物極微量。しまり良。  
2 銀色 [10YR4/6] 黒褐色少々、炭化物微量。土部片を含む。しまり良。  
3 黄褐色 [10YR4/6] 滑移層か。



28号  
1 黒褐色 [10YR2/3] ローム多量、炭化物少量。しまり強。  
2 黄褐色 [10YR2/2] ローム多量、炭化物少々。しまり強。  
3 貝殻褐色 [10YR7/6] ロームブロック層。黒褐色土混入。しまり強。  
4 黄褐色 [10YR3/2] ローム混入、炭化物少々。しまり強。



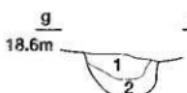
31号  
1 黒褐色 [10YR2/2] ローム混入、炭化物微量。しまり良。  
2 黄色 [10YR4/6] 粘土少々、炭化物ごく微量。1層より粘性強。



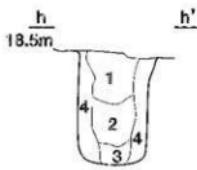
56号  
1 黒褐色 [10YR2/2] 炭化物少々、ローム粒微前。上鉄片を含む。しまり良。  
2 黄褐色 [10YR3/3] 炭化物少々、ローム粒ごく微量。しまり良、1層よりしまり強。  
3 黄褐色 [10YR3/3] ロームブロック混入、炭化物微量。しまり強。



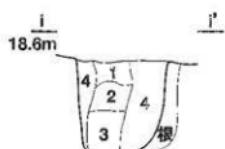
58号  
1 黒褐色 [10YR2/3] ロームブロック・炭化物少々、  
粘土粒微少。しまり強。  
2 黄褐色 [10YR3/4] ロームブロック少々。  
1層より粘性強。



59号  
1 黄褐色 [10YR3/3] ロームブロック少々、炭化物微量、礫石器含む。しまり良。  
2 黄褐色 [10YR3/4] ロームブロック混入。粘性強。1層よりしまり強。



60号  
1 黒褐色 [10YR3/2] ロームブロック少々、炭化物・焼土粒微少。しまり良。  
2 黑褐色 [10YR3/2] ロームブロック少々。しまり1層よりやや強、1層より粘性強。  
3 黑褐色 [10YR3/2] 炭化物・焼土粒中量。粘性2層よりやや強。  
4 黄褐色 [10YR3/3] ロームブロック多量、焼土粒・炭化物微量。しまり強。



185号  
1 黒褐色 [10YR2/2] ローム少量、炭化物・焼土粒微量。しまり良。  
2 黄褐色 [10YR3/3] ロームブロック多量。粘性やや強。しまり良。  
3 黑褐色 [10YR2/2] ロームブロック多量。粘性・しまり強。  
4 黄褐色 [10YR3/3] ロームブロック混入。しまり良。

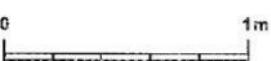


図49 21・24・33・51・56・58~60・185号 土層断面図

表21 100号 出土遺物觀察表

No.	種別	器形	部位	層位	年代	型式	備考
1	縄文土器	深鉢形土器	胴	2層	後期初頭	—	
2	縄文土器	深鉢形土器	口縁	5層	後期初頭	—	
3	縄文土器	深鉢形土器	胴	5層	後期初頭	—	
4	縄文土器	深鉢形土器	胴	7層	後期初頭	—	
5	縄文土器	深鉢形土器	胴	7層	後期初頭	—	
6	縄文土器	深鉢形土器	口縁	9層	後期初頭	—	
7	縄文土器	深鉢形土器	口縁	10層	後期初頭	—	
8	縄文土器	深鉢形土器	口縁～胴	10層	後期初頭	—	
9	縄文土器	深鉢形土器	胴～底	10層	後期初頭	—	
10	縄文土器	深鉢形土器	胴	11層	後期初頭	—	
11	縄文土器	深鉢形土器	胴～底	16層	後期初頭	—	
12	縄文土器	深鉢形土器	口縁～胴	17層	中期末葉～後期初頭	—	
13	縄文土器	深鉢形土器	胴	17層	中期末葉～後期初頭	—	12と同一個体
14	縄文土器	深鉢形土器	口縁～胴	17層	中期末葉～後期初頭	—	12と同一個体
15	縄文土器	深鉢形土器	口縁～胴	17層	中期末葉～後期初頭	—	12と同一個体
16	縄文土器	深鉢形土器	胴	17層	後期初頭	—	12と同一個体
17	縄文土器	深鉢形土器	胴	17層	後期初頭	—	
18	縄文土器	深鉢形土器	胴	17層	後期初頭	—	
19	縄文土器	深鉢形土器	口縁	下層	後期初頭	—	
20	縄文土器	深鉢形土器	口縁	下層	後期初頭	—	
21	縄文土器	深鉢形土器	口縁～胴	下層	後期初頭	—	
22	縄文土器	深鉢形土器	胴	下層	後期初頭	—	
23	縄文土器	深鉢形土器	胴	下層	後期初頭	—	
24	縄文土器	深鉢形土器	胴	下層	後期初頭	—	外面スス付着
25	縄文土器	深鉢形土器	胴	下層	後期初頭	—	
26	縄文土器	深鉢形土器	胴	下層	後期初頭	—	
27	縄文土器	深鉢形土器	胴	一括	後期初頭	—	
28	縄文土器	深鉢形土器	胴	一括	後期初頭	—	
29	縄文土器	深鉢形土器	胴	一括	後期初頭	—	28と同一個体
30	縄文土器	深鉢形土器	胴	一括	後期初頭	—	

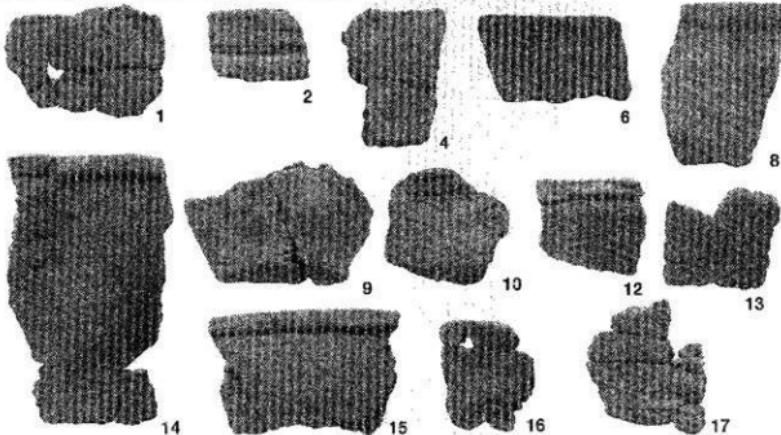


写真51 100号 出土遺物

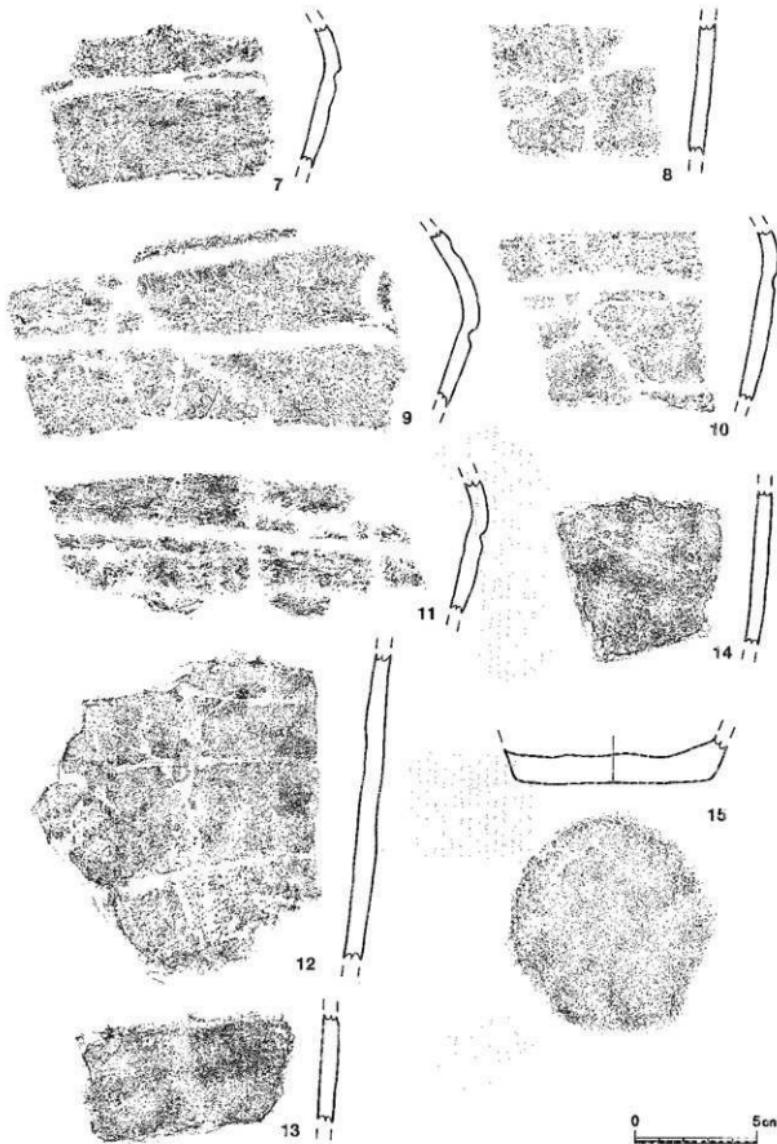


图53 56号 出土遗物

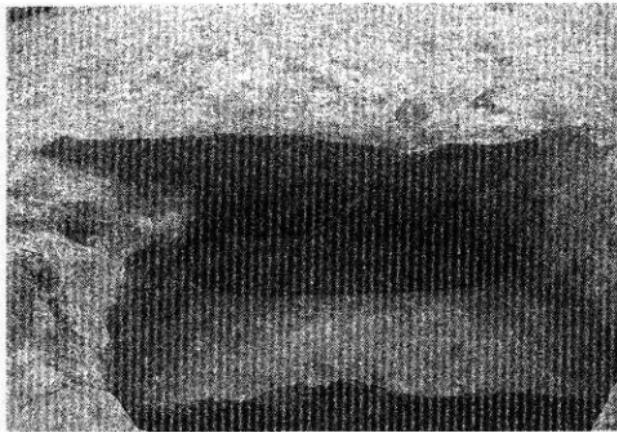


写真52  
100号土層断面上部  
(北から)

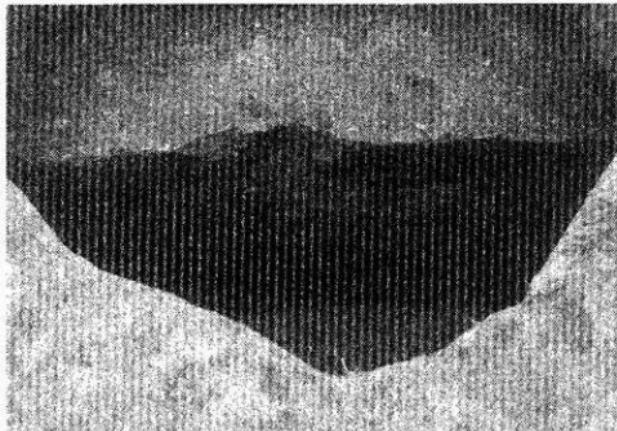


写真53  
100号土層断面下部  
(北から)

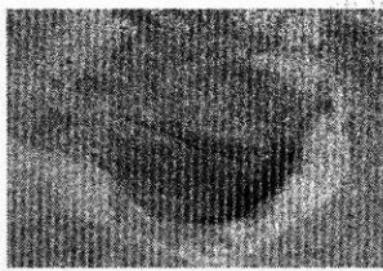


写真54 100号Pit 1 土層断面 (北から)

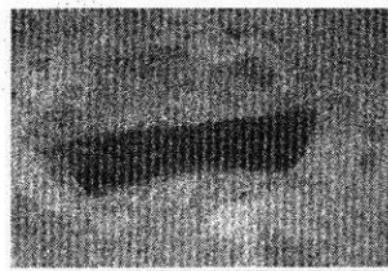


写真55 100号Pit 2 土層断面 (西から)

4-4-6 22・28・69・115・136・203号

調査区西部のC2～C3に位置する遺構群である。これらは近隣に位置する同段階のピット群として取り扱った。これらは全て後世の植林等により上部構造を削平された竪穴住居跡の柱穴群ではないかとも考えたが、このことを積極的に支持する物証は得られず、遺構間の相関関係は不明である。

遺物は22号より後期初頭を下限とする土器片が少量出土している。これらのピット群の内、136号が後期初頭段階と判定された101号を掘り込んでいることから、縄文後期初頭～後期前葉の遺構群と推測しているが、それぞれの遺構の機能・性格もよくわからなかった。  
(佐野)

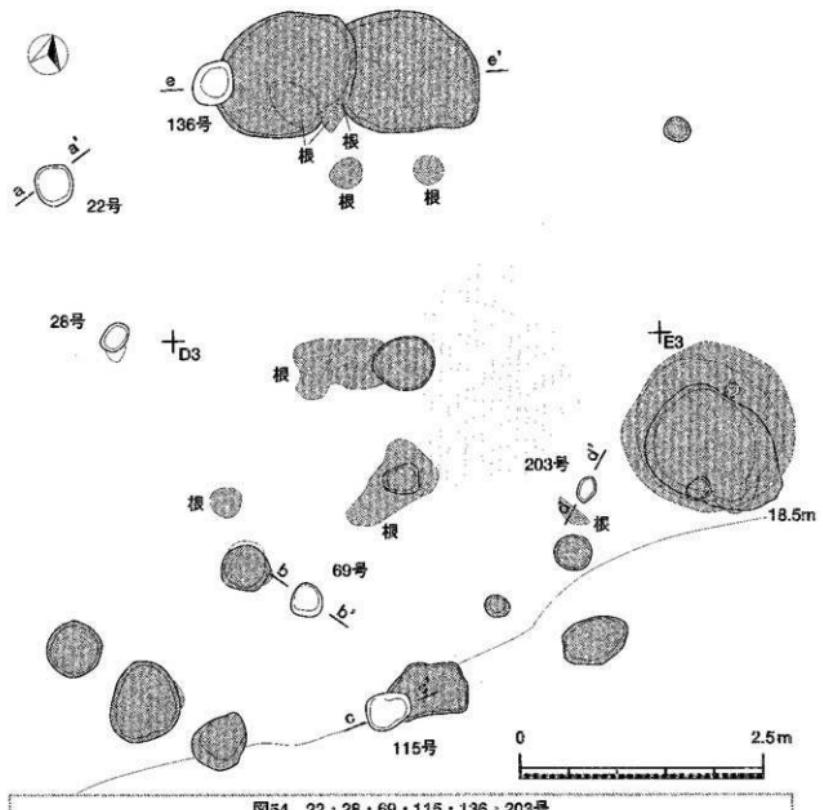


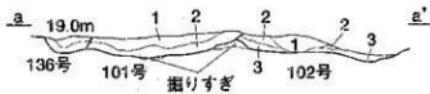
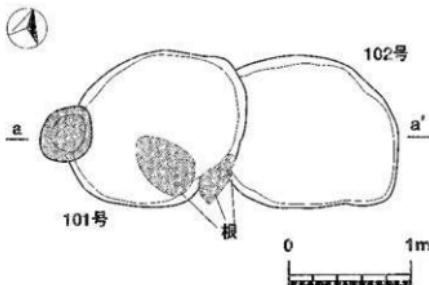
図54 22・28・69・115・136・203号

#### 4-4-15 101・102号

調査区西部のD 2 グリッドに位置する重複関係にある 2 基の土坑である。101号が 102号を掘り込んでいる。当初は 1 基の遺構として取り扱った関係で遺物が混在しているが、後期初頭と判断された出土土器片等の多くは 101号内から出土している状況が窺えた。101号は後期初頭～前葉に比定される 136号に掘り込まれていることから、縄文後期初頭段階の遺構と判断された。

また 102号は覆土 1 層より後期初頭の土器片が出土しており 101号とはほぼ同一段階のものと判断したが、2 層位以下の覆土は中期末葉～後期初頭段階の遺構と同様な様相が見られるため、この段階の遺構の可能性もある。両者とも遺構の機能・性格は不明である。

(佐野)



- |       |                                 |
|-------|---------------------------------|
| 101号  |                                 |
| 1 黒褐色 | [10YR2/2] ロームブロック少量、炭化物微量。しまり良  |
| 2 黒褐色 | [10YR4/4] 黒褐色上ブロック少量、炭化物微量。しまり良 |
| 3 棕色  | [10YR4/6] 棕褐色土ブロック多量、炭化物微量。しまりぬ |
- 
- |       |                                    |
|-------|------------------------------------|
| 102号  |                                    |
| 1 黒褐色 | [10YR2/3] ロームブロック少量、炭化物・焼土粒微量。しまり良 |
| 2 黒褐色 | [10YR3/3] ロームブロック少量、炭化物・焼土粒微量。しまり良 |
| 3 棕色  | [10YR4/6] 棕褐色土ブロック多量、炭化物微量。しまりぬ    |

図77 101・102号

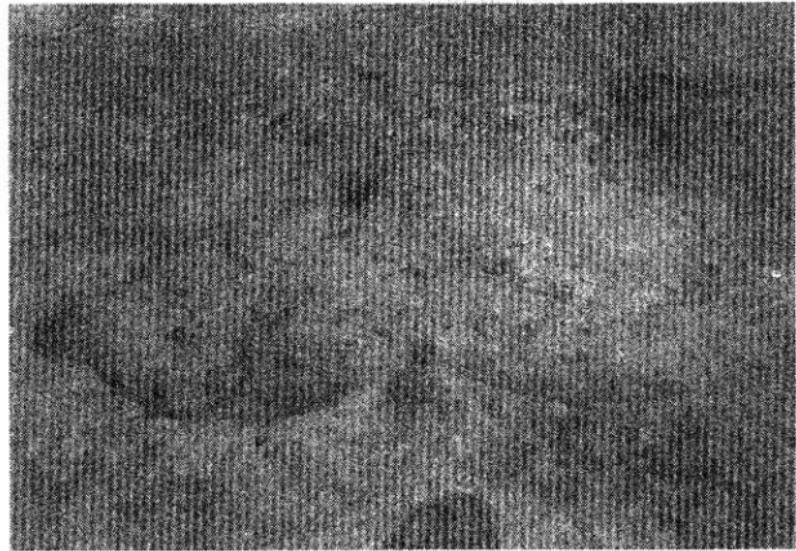


写真56 101<左>・102<右>号 (南から)

#### 4-4-7 29号

調査区西部のA4グリッドに位置する、開口部の長径1.8m×短径1.5m、開口部からの深さ1.2m程度を測るフラスコ状土坑である。底面中央部(31号)と底面北縁際(32号)に付属する掘り込み(ピット)を有している。遺物は覆土1層より後期初頭の上器片が少量出土している。

掘削中に上層観察用ベルトが崩壊してしまったことなどから詳細なことは不明であるが、出土遺物の年代や、本遺構の東方向のほぼ同じ地山標高上に位置し、規模・構造が類似するフラスコ状土坑(100号)が後期初頭段階のものであることから、同時期の遺構と推定している。(佐野)

表16 29号に伴う遺構

番号	グリッド	種別	時代	備考
29号	A4	フラスコ状土坑	後期初	
31号	A4	ピット	後期初	29号の底面を掘り込むピット
32号	A4	ピット	後期初	29号の底面を掘り込むピット

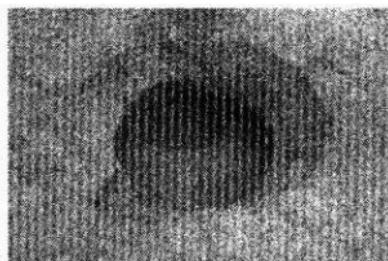


写真40 29号 (南から)

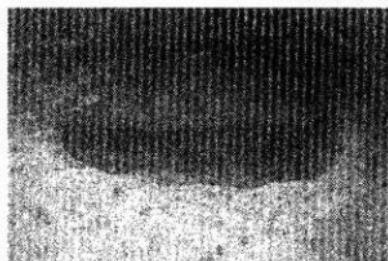
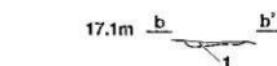
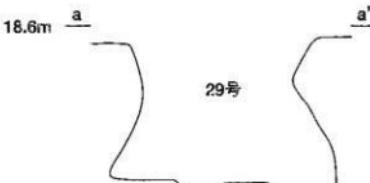
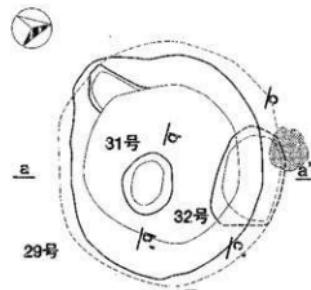


写真41 32号 (南から)



31号  
1 暗褐色 [10YR3/3] 黒色砂混入、炭化物少量。しまり強



32号  
1 黒褐色 [10YR2/1] 砂、炭化物微量。しまり弱  
2 黒褐色 [10YR3/2] 砂、炭化物少量。しまり強



図56 29・31・32号

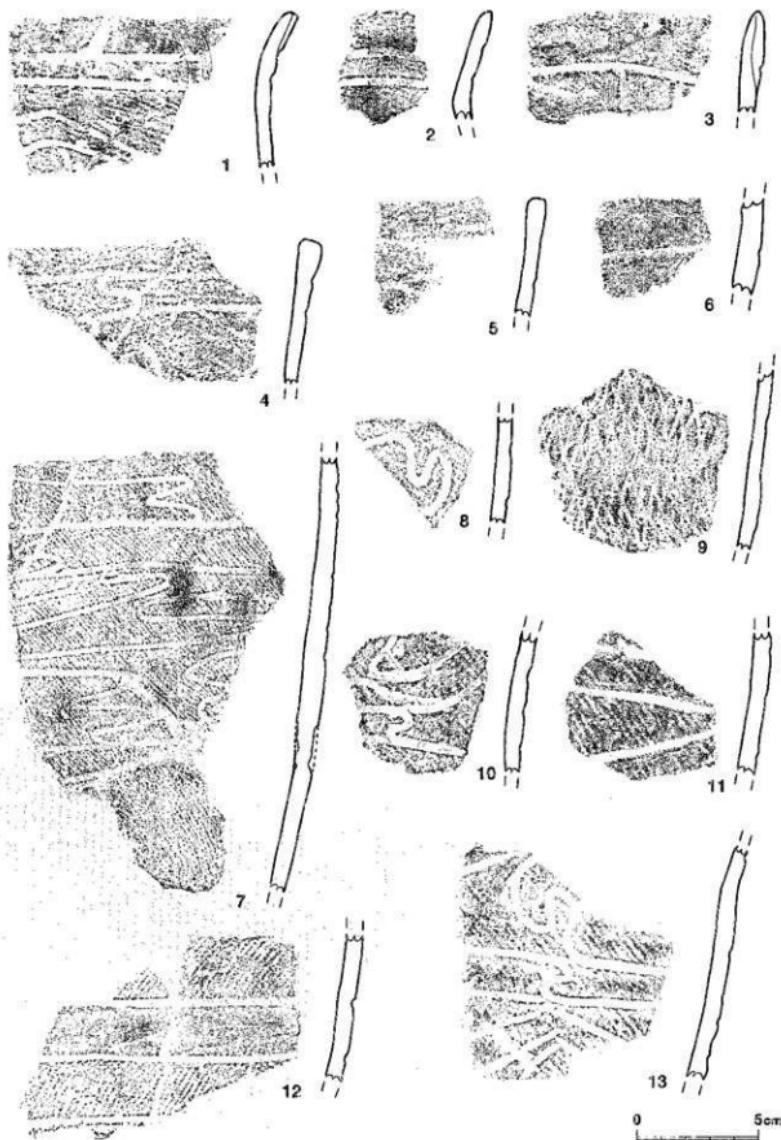


図78 101・102号 出土遺物①

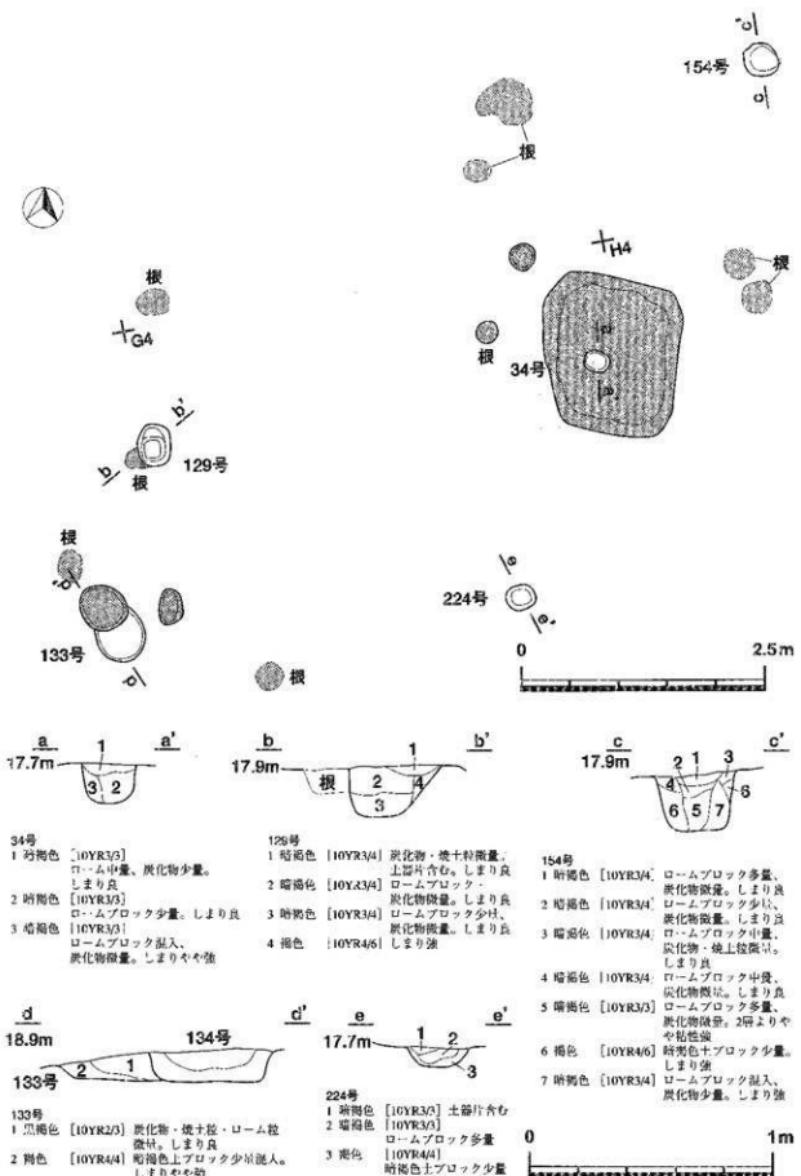


圖58 34·129·133·154·224號

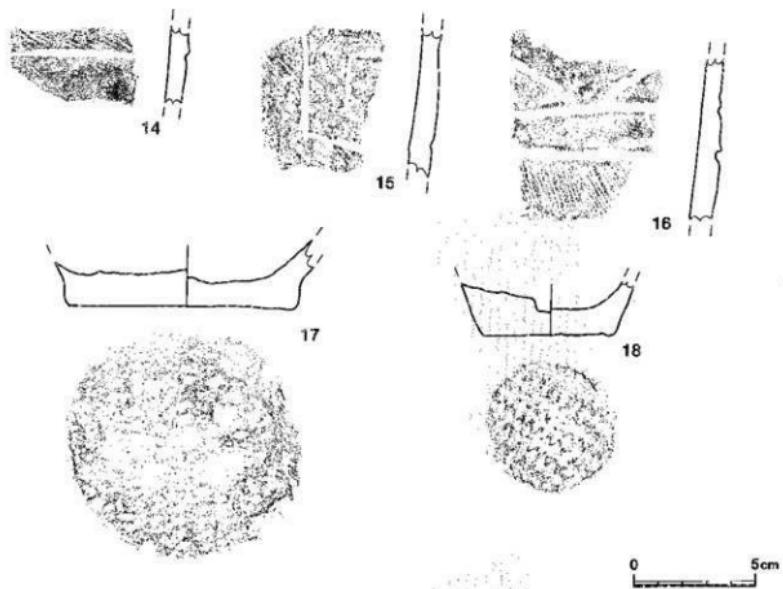


図79 101・102号 出土遺物②

表22 101・102号 出土遺物観察表

No.	種別	器形	部位	遺構	層位	年代	型式	備考
1	縄文土器	深鉢形上器	口縁～胴	101号	1層	後期初頭	—	
2	縄文土器	深鉢形土器	口縁	101号	1層	後期初頭	—	
3	縄文土器	深鉢形上器	口縁	101～102号	上層	後期初頭	—	
4	縄文土器	深鉢形土器	口縁	101～102号	上層	後期初頭	—	
5	縄文土器	深鉢形上器	口縁	101～102号	上層	後期初頭	—	
6	縄文土器	深鉢形土器	胴	101～102号	上層	後期初頭	—	3と同 个体
7	縄文土器	深鉢形上器	胴	101～102号	上層	後期初頭	—	
8	縄文土器	深鉢形土器	胴	101～102号	上層	後期初頭	—	
9	縄文土器	深鉢形上器	胴	101～102号	上層	後期初頭	—	
10	縄文土器	深鉢形土器	胴	101～102号	上層	後期初頭	—	
11	縄文土器	深鉢形上器	胴	101～102号	上層	後期初頭	—	
12	縄文土器	深鉢形土器	胴	101～102号	上層	後期初頭	—	
13	縄文土器	深鉢形上器	胴	101～102号	上層	後期初頭	—	
14	縄文土器	深鉢形土器	胴	101～102号	上層	後期初頭	—	12と同 个体
15	縄文土器	深鉢形上器	胴	101～102号	上層	後期初頭	—	
16	縄文土器	深鉢形土器	胴	101～102号	上層	後期初頭	—	
17	縄文土器	深鉢形上器	底	101～102号	上層	後期初頭	—	銅代底
18	縄文土器	深鉢形土器	底	101～102号	上層	後期初頭	—	銅代底

#### 4-4-9 35号

調査区西南端部のA5グリッドに位置する土坑である。地山標高18m程度の南へ向かう斜面上に位置し、径1mほどの不整円形の平面形状を呈する。

遺物は縄文中期末葉～後期初頭の上器片等が少量出土したほか、覆土1層より後期前葉の十腰内T式に比定されると考えられた土製品（図62-2）が出土している。ゆえに年代的には縄文後期前葉を下限とする後期初頭～前葉段階の遺構と判断された。

なお、遺構の機能・性格については、前述した土製品の出土や、1層がローム土を用いて人為的に埋め戻されたような様相もみられたことから、土坑墓または祭祀的な遺構とも考えたが、他にこれらの推測を積極的に肯定する要素はなく、詳細は不明である。（佐野）

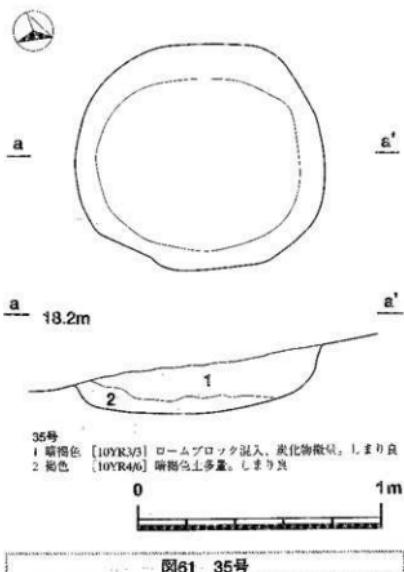


図61 35号

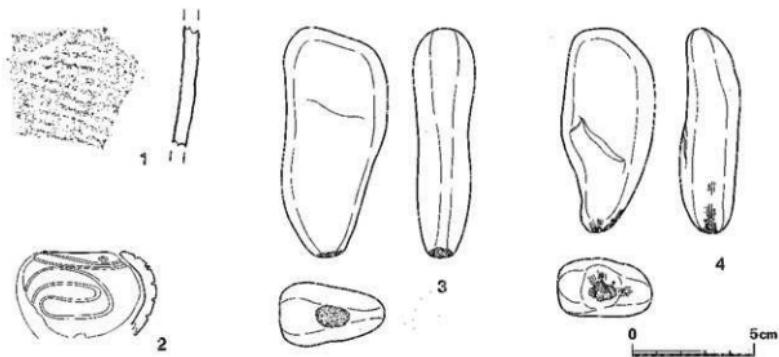


図62 35号 出土遺物

表18 35号 出土遺物観察表

No.	種別	器形	部位	層位	年代	型式・石材	備考
1	縄文土器	深鉢形土器	胴	1層	中期末葉～後期初頭	—	
2	縄文土器	土製品	口縁～胴	1層	後期前葉	十腰内T	
3	石器	磨石	—	1層	—	安山岩	端部に敲打痕
4	石器	敲石	—	1層	—	泥岩	端部に敲打痕・擦痕

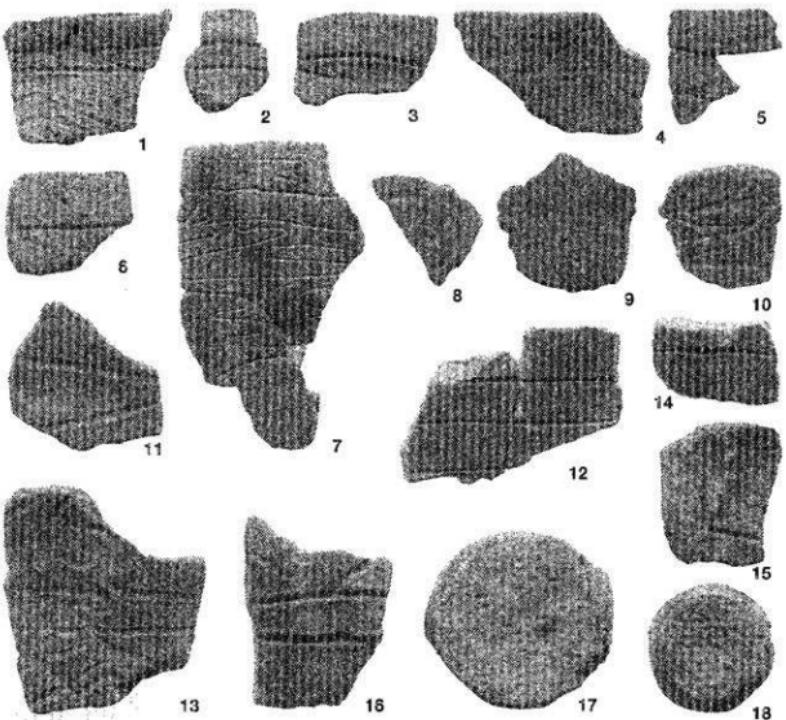


写真57 101・102号 出土遺物

#### 4-4-16 106号

調査区西部中央よりのG3 グリッドに位置する十坑である。北東～南西方向に遺構の長軸を有し、長軸方向に1.3m×幅1 mほどの規模をもつ。平面形状は、指円形を呈する。出土遺物から年代的には純文後期初頭段階の遺構と考えている。

この遺構の特徴は、覆土2層に焼土を多量に含んでおり、その直上にのる覆土1層に後期初頭を中心とする中期末葉～後期初頭段階の土器の大破片が出たことである。本遺構は遺構上部まで後世の搅乱を受けていたため、出土した土器は形状を完全に復元出来るものはなかったが、図81-5・6（同一個体）の深鉢形土器は本来完形またはそれに近い状態で埋納されていた可能性が窺えた。

焼土の検出と、土器の出土状況、そして遺構の規模・形状から本遺構を該期の土坑墓と考えているが、人骨等は検出していない。なお前述した98号も同時期の土坑墓の可能性があり、今回の調査地点周辺には後期初頭段階の土坑墓がほかにも存在する可能性が窺えた。  
(佐野)

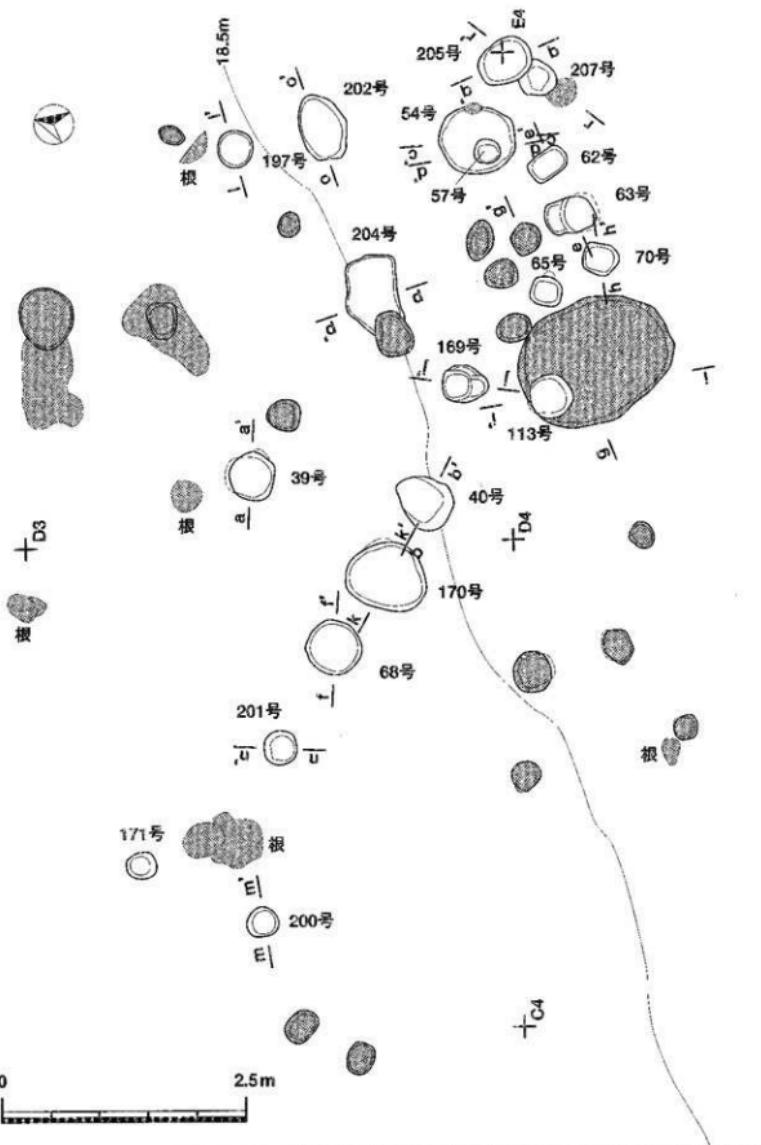
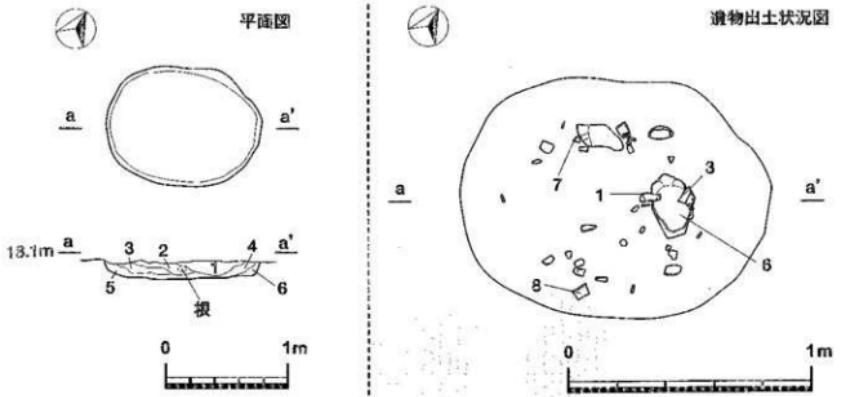


图63 39・40・54・57・62・63・65・66・70・113・

169～171・197・200～202・204・205・207号



106号

- 1 黄褐色 [10YR2/3] ローム岩・ロームブロック少証、炭化物・礫上少量、土器含む。しまり良
- 2 暗褐色 [10YR3/3] 烧土・赤褐色 [5YR4/6] 多量、炭化物少量、下部にロームブロック少量。しまり良
- 3 暗褐色 [10YR3/3] ロームブロック少証、礫上・炭化物微量。2層よりややしまり強
- 4 棕褐色 [10YR3/3] ロームブロック少証、炭化物微量。
- 5 暗褐色 [10YR4/6] 暗褐色土ブロック混入、焼土粒・炭化物微量。しまり強
- 6 暗褐色 [10YR4/6] 暗褐色土ブロック少量、炭化物微量。しまり強

図80 106号

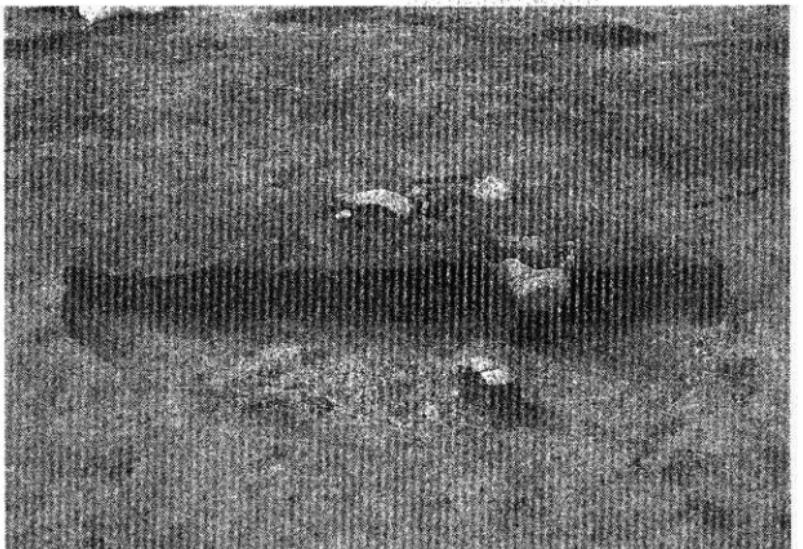
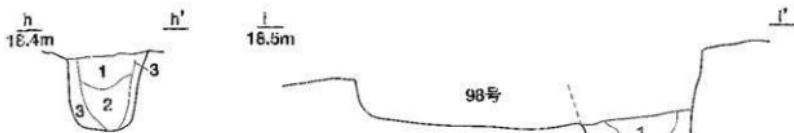
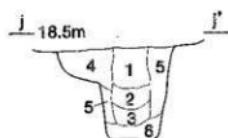


写真58 106号 遺物出土状況 (南から)

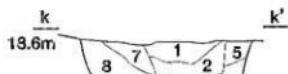


- 70号  
1 黒褐色 [10YR2/2] ローム粒・炭化物少量。しまり強  
2 黒褐色 [10YR3/2] ロームブロック・炭化物中量。1層より粘性強やや強。しまり強  
3 黒褐色 [10YR2/1] ロームブロック混入、炭化物微量。しまり強

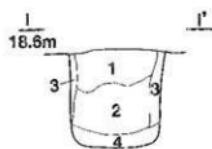
- 113号  
1 黒褐色 [10YR2/2] ローム粒・ロームブロック少量、炭化物・焼土粒微量。しまり強  
2 黒褐色 [10YR2/3] ロームブロック多量、炭化物微量。1層より粘性強  
3 黒褐色 [10YR2/2] ロームブロック混入、炭化物微量。しまり強



- 169号  
1 黒褐色 [10YR2/3] ロームブロック少量、炭化物・焼土粒微量。しまり強  
2 黑褐色 [10YR3/3] 肥ぐしまる、1層より粘性強  
3 増褐色 [10YR3/4] ロームブロック多量、炭化物微量、粘性強。  
しまり強  
4 増褐色 [10YR3/4] ロームブロック多量、炭化物・焼土粒微量。しまり強  
5 増褐色 [10YR3/4] ロームブロック中量、炭化物・焼土粒微量、土砂混入。しまり強  
6 増褐色 [10YR3/4] ロームブロック混入。しまり強



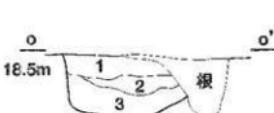
- 170号  
1 増褐色 [10YR2/2] ロームブロック・炭化物・焼土粒少量。しまり良  
2 黒褐色 [10YR2/3] ロームブロック少量、炭化物微量。しまり強  
3 増褐色 [10YR3/3] ロームブロック多量、炭化物微量。しまり強  
4 無色 [10YR4/6] 炭化物微量、暗褐色少々ブロック少量  
5 增褐色 [10YR3/3] ロームブロック混入。しまり強  
6 無色 [10YR4/6] 固くしまる、軟性強  
7 増褐色 [10YR3/2] ロームブロック混入。しまり強  
8 無色 [10YR4/6] 増褐色上ブロック混入



- 200号  
1 増褐色 [10YR3/3] ロームブロック多量、炭化物微量。しまり良  
2 無色 [10YR4/4] 焼土粒・ロームブロック少量。しまり強

- 201号  
1 増褐色 [10YR3/1] ロームブロック中量、炭化物微量。しまり良  
2 無色 [10YR4/6] 炭化物微量。しまり強

- 197号  
1 増褐色 [10YR3/3] ロームブロック中量、ローム粒・炭化物・焼土粒微量。しまり強  
2 増褐色 [10YR2/3] ロームブロック多量、炭化物微量。しまり強  
3 無色 [10YR4/6] 増褐色上ブロック (10YR3/3) 中量。しまり強  
4 無色 [10YR4/6] 無層形か



- 202号  
1 増褐色 [10YR2/2] ローム粒上混入、炭化物少量。しまり良  
2 増褐色 [10YR2/2] ローム粘土粒中量、炭化物少  
3 増褐色 [10YR2/2] ローム粘土混入、炭化物少量。しまり良

- 204号  
1 無色 [7.5YR4/3] 被蒸したローム粘土でややパウダー質化  
2 無色 [7.5YR6/8] ローム粘土層。被蒸した粘土が黒褐色化

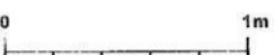


図65 70・113・169・170・197・200～202・204号 土層断面図



図81 106号 出土遺物

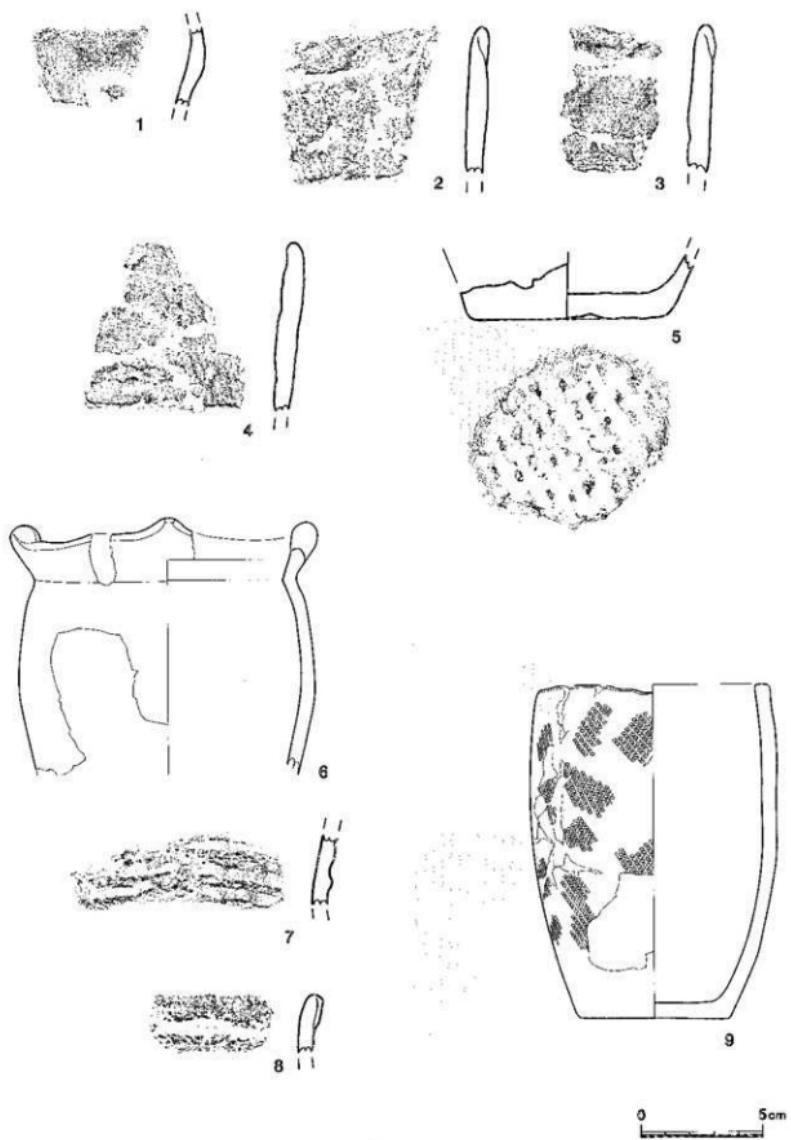


图69 40·54·68·70·113·170号 出土遗物

表23 106号 出土遺物観察表

No.	種別	型 形	部 位	層 位	年 代	製 式	備 考
1	縄文土器	深鉢形土器	口縁	1層	後期初頭	—	
2	縄文土器	深鉢形土器	肩～頸	1層	中期末葉～後期初頭	—	
3	縄文土器	深鉢形土器	頸	1層	後期初頭	—	
4	縄文土器	深鉢形土器	頸	1層	後期初頭	—	
5	縄文土器	深鉢形土器	頸	1層	後期初頭	—	
6	縄文土器	深鉢形土器	頸～底	1層	後期初頭	—	5と同一個体
7	縄文土器	深鉢形土器	口縁	2層	後期初頭	—	
8	縄文土器	深鉢形土器	肩	2層	中期末葉～後期初頭	—	
9	縄文土器	深鉢形土器	頸	3層	後期初頭	—	

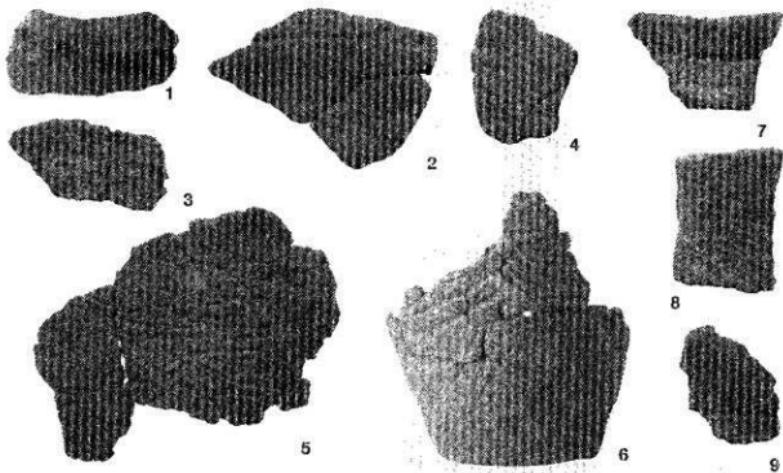


写真59 106号 出土遺物

## 4-4-17 116・119・120・122・123・125号

調査区西部のF2～G2グリッド付近に位置する土坑・ピット群である。覆土の色調・しまり等もまちまちであるが、すべてⅢ層上面付近で確認したため、近隣に位置する同段階の遺構群として扱った。

遺物は、116号覆土1層より、中期末葉～後期初頭の上器細片が少量出土しているが、遺構確認面から判断して、これらの遺構群は縄文後期初頭～前葉段階のものと推定している。ただし、遺構の機能・性格については明らかにできなかった。

119・125号は、根に侵食を受けているが全体に層のしまりがよく遺構と判断するのに何ら疑問はない。しかしその他については周囲に根跡が多く確認され、複土上層のしまりも弱いため、これらも根跡ではないかとも考えられたが、積極的にそれと判断出来なかつたため、遺構として取り扱っている。

(佐野)

4-4-11 64・66・67・114

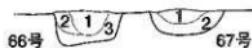
・198号

調査区西部のD3～D4グリッドに位置する土坑・ピット群である。暗褐色を呈する覆土上の特徴に共通点が見られる事から、同段階の遺構として括り取扱っている。

遺物は198号2層より中期末葉～後期初頭の上器細片が出土している。覆土上と出土遺物から判断して、これらの遺構の年代を縄文中期末葉～後期初頭段階のものと推定している。なお、それぞれの遺構の機能・性格は明らかにできなかった。

(佐野)

18.5m a-

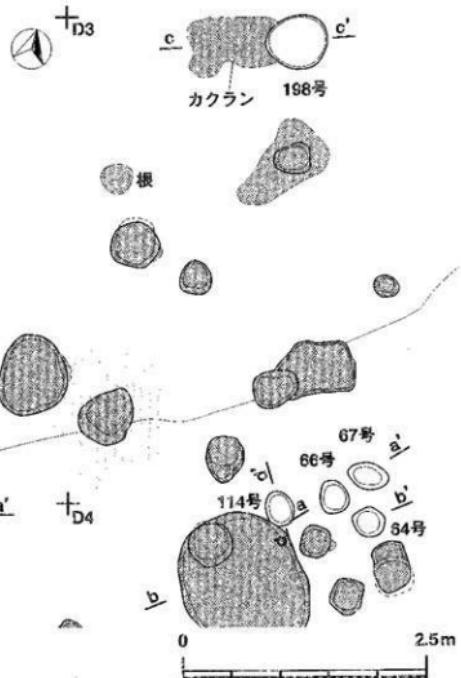


66号

- 1 黒褐色 [10YR3/3] 灰化物・焼土粒微量
- 2 粉褐色 [10YR3/3] ロームブロック多量
- 3 砂褐色 [10YR3/3] ロームブロック混入

67号

- 1 黒褐色 [10YR3/3] 灰化物粒・焼土並微量
- 2 黃褐色 [10YR4/4] 烧土粒ごく微量。しまり強



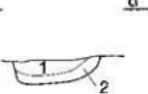
18.5m b-



64号

- 1 塗褐色 [10YR3/4] ローム粒・灰化物・焼土粒少量。しまり強
- 2 砂褐色 [10YR3/4] 燃よりロームブロック多量。しまり強
- 3 黑褐色 [10YR3/4] ロームブロック混入。しまり強

18.6m d-



18.6m c-



198号

- 1 黒褐色 [10YR3/3] ロームブロック中量、灰化物微量。しまり強
- 2 砂褐色 [10YR3/3] ロームブロック多量、灰化物微量。しまり強

c'

114号

- 1 黒褐色 [10YR3/3] ロームブロック少量、灰化物・焼土粒微量。しまり強
- 2 黑褐色 [10YR3/4] ロームブロック巾量。しまり強

0

1m

図70 64・66・67・114・198号

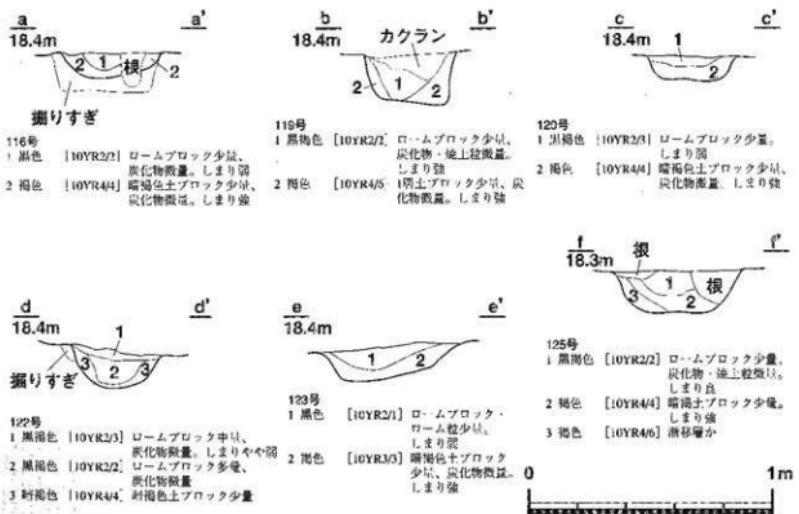
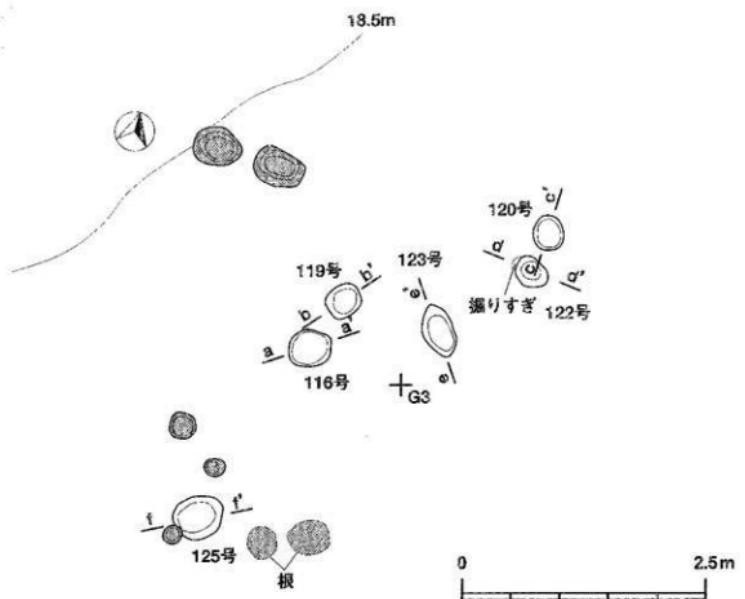


図82 116・119・120・122・123・125号

#### 4-4-13 98号

調査区西部のD4グリッドに位置する土坑である。北西～南東方向に長軸線を持ち、長軸方向1.6m×短軸方向1.3m程度の規模で、楕円形の平面形状を呈する。

遺物は後期初頭の土器片等が出土している。また覆土はしまりがよく、人為的に埋め戻されたような様相も観えた。

年代的には縄文後期初頭段階の遺構と考えられ、平面形状や覆土の状態から、土坑墓ではないかとも考えているが、骨片の発見等、それを積極的に支持するような要素はなく、詳細は不明である。  
(佐野)

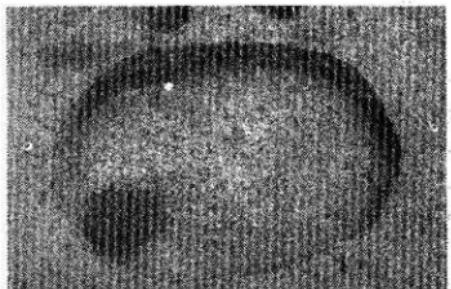
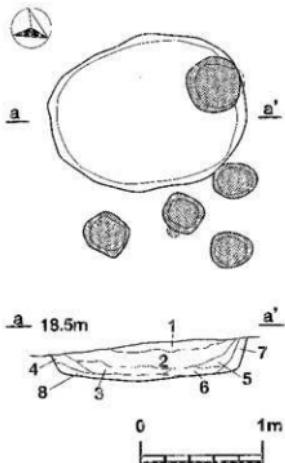


写真50 98号（西から）



- 98号
- 1 暗褐色 [10YR3/3] ロームブロック・炭化物少量、  
燒上部微量、しまり強
  - 2 暗褐色 [10YR3/3] ローム・ロック混入、炭化物・  
後上部微量、しまり強
  - 3 黒褐色 [10YR2/2] ロームブロック少量、炭化物微量、  
土器片含む、しまり強
  - 4 暗褐色 [10YR3/3] ローム・ロームブロック中量、  
しまり強
  - 5 黒褐色 [10YR2/2] ロームブロック少量、土器片含む、  
しまり強
  - 6 黑褐色 [10YR2/3] ロームブロック多量、土器片含む、  
しまり強
  - 7 黒褐色 [10YR2/2] ロームブロック少量、炭化物微量、  
しまり強
  - 8 黑色 [10YR4/6] 燃焼色上部ブロック中量、しまり強

図72 98号

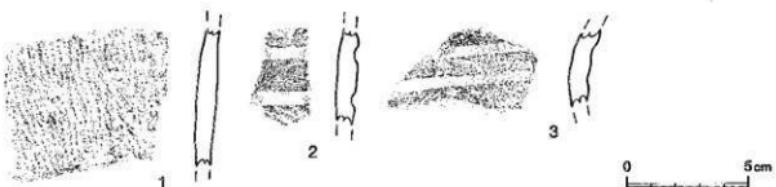


図73 98号 出土遺物

表20 98号 出土遺物調査表

No.	種別	器形	部位	層位	年代	型式	備考
1	縄文土器	深鉢形土器	崩	2層	後期初頭	—	—
2	縄文土器	深鉢形土器	崩	2層	後期初頭	—	—
3	縄文土器	深鉢形土器	崩	2層	後期初頭	—	—

表1 平成17(2005)年度調査区 接出邊構リスト

番号	グリッド	種別	時代	番号	グリッド	種別	時代	番号	グリッド	種別	時代
1号	A3	土坑	後期初~前	79号	C4	ピット	後期初~前	170号	C3	土坑	後期初~前
2号	A3~B3	ピット	後期初~前	80号	A3	ピット	後期初	171号	C3	ピット	後期初~前
3号	B3	ピット	後期初~前	81号	B3	ピット	後期初	172号	E4	柱穴	中期末~後期初
4号	B3	ピット	後期初~前	82号	B3	ピット	後期初~前	173号	E4	ピット	後期初
5号	B4	ピット	後期初~前	83号	B3	ピット	後期初~前	174号	E3~E4	土坑	後期初~前
6号	B3~B4	ピット	後期初~前	84号	A3	土坑	後期初~前	175号	H3	柱穴	中期末~後期初
7号	B3	ピット	後期初~前	85号	B2	ピット	後期初	176号	E4	ピット	後期初
8号	H3	ピット	後期初~前	86号	A2	ピット	後期初~前	177号	A3	ピット	後期初~前
9号	B3	ピット	後期初~前	87号	A2	ピット	後期初	178号	A3	ピット	後期初
10号	A2	ピット	後期初~前	88号	F2	ピット	後期初~前	179号	A2	ピット	後期初~前
11号	A3	ピット	後期初~前	90号	E2	土坑	後期初	180号	A2	ピット	後期初~前
12号	A2	土坑	後期初~前	91号	I2	ピット	後期初	181号	B3	ピット	後期初
13号	A2	ピット	後期初~前	94号	E2	ピット	後期初	182号	F4	土坑	後期初~前
14号	A2	ピット	後期初~前	95号	E2~F2	土坑	後期初	183号	F4	ピット	後期初
15号	A2	ピット	後期初~前	97号	E2~E3	土坑	後期初	184号	E4	柱穴	中期末~後期初
17号	A2	ピット	後期初~前	98号	D4	土坑(廃坑?)	後期初	185号	C4	土坑	後期初
18号	B4	土坑	後期初~前	100号	D3~D4	ラフスコ状土坑	後期初	186号	C4	ピット	後期初~前
19号	B4	土坑	後期初~前	101号	D7	土坑	後期初	187号	E4	柱穴	中期末~後期初
21号	A4~H4	ピット	後期初	102号	D2	土坑	中前期~後期初	188号	D1	ピット	後期初~前
22号	C2	土坑	後期初~前	103号	A3	柱穴	後期初	189号	D1	ピット	後期初
23号	B2	黄土	平型	103号	H3	土坑	中前期~後期初	190号	D4	ピット	後期初
24号	B5	土坑	後期初	105号	E4~F4	仰軸	中前期~後期初	191号	F6	ピット	後期初~前
25号	A4~H5	土坑	後期初~前	106号	G3	土坑(蓋廃坑?)	後期初	192号	E4	土坑	後期初
26号	B4	土坑	後期初~前	111号	E4	土坑	後期初	193号	E5	土坑	後期初~前
27号	B5	災害	半壊	113号	D4	土坑	後期初~前	195号	F4	柱穴	中期末~後期初
28号	C2~C3	ピット	後期初~前	114号	D3~D4	ピット	中前期~後期初	196号	F4	柱穴	中期末~後期初
29号	A4	ラフスコ状土坑	後期初	115号	D3	土坑	後期初~前	197号	D3	ピット	後期初~前
30号	G4~H4	火炎	半壊	116号	F2	土坑	後期初~前	198号	D3	土坑	中期末~後期初
31号	A4	ピット	後期初	117号	P2	土坑	後期初	199号	D3	ピット	後期初
32号	A4	ピット	後期初	118号	F1~F2	ピット	小中期~後期初	200号	C3	ピット	後期初~前
33号	B5	ピット	後期初	119号	F2	ピット	後期初~前	201号	C3	ピット	後期初~前
34号	G4	ピット	中前期~後期初	200号	G2	ピット	後期初~前	202号	D3	土坑	後期初~前
35号	A5	土坑(草廬?)	後期初~前	211号	V5	ピット	後期初	203号	D3	ピット	後期初~前
36号	B4	ピット	後期初~前	212号	G2	ピット	後期初~前	204号	D3	縦土塁	後期初~前
37号	B3	ピット	後期初	213号	G2	土坑	後期初~前	205号	D3~E4	柱穴	後期初~前
38号	B4	土坑	後期初~前	215号	F3	土坑	後期初~前	206号	E3~F3	ピット	後期初
39号	D3	土坑	後期初~前	216号	F3	土坑	後期初	207号	D4	ピット	後期初~前
40号	D3	土坑	後期初~前	219号	L4~G4	土坑	中前期~後期初	208号	J3	ピット	後期初
41号	B4	ピット	後期初~前	219号	F2	土坑	後期初	209号	J4	ピット(穴?)	小中期
42号	B3	土坑	後期初	219号	F2	土坑	後期初	210号	J4	ピット(穴?)	半壊
43号	B3	土坑	後期初	212号	F4	ピット	小中期~後期初	211号	J3	ピット(穴?)	半壊
44号	B3	ピット	後期初	213号	F4	土坑	中前期~後期初	212号	J3	ピット	半壊
45号	H3	土坑	後期初	214号	F4	土坑	中前期~後期初	213号	B4~C4	ピット	後期初~前
46号	B3~C3	ピット	後期初	215号	F3	土坑	後期初~前	214号	B4~C4	土坑	後期初~前
47号	B3	ピット	後期初~前	216号	F2	土坑	後期初~前	215号	E4~F4	ピット	後期初
48号	B5	土坑	後期初~前	217号	F3	ピット	後期初	216号	E4	ピット	後期初
49号	B4	土坑	後期初~前	218号	F3	柱穴	後期初	217号	E3	ピット	後期初
51号	C4~C5	土坑	後期初	219号	G2	土坑	中前期~後期初	218号	E3	ピット	後期初
52号	C1	ピット	後期初~前	221号	F4	土坑	中前期~後期初	219号	E3	ピット	後期初
53号	C4	ピット	後期初~前	221号	H3	ピット	後期初~前	220号	F4	柱穴	中期末~後期初
54号	D3~D4	土坑	後期初~前	222号	H3	土坑	後期初~前	221号	E4	ピット	後期初
55号	D4	ピット	後期初~前	224号	H4	土坑	後期初	222号	D3	ピット	後期初
56号	B5	土坑	後期初	224号	F3	ピット	後期初	223号	A3	ピット	後期初~前
57号	D3	ピット	後期初~前	224号	F7	ピット	後期初	224号	H4	ピット	中期末~後期初
58号	C4	ピット	後期初	224号	H4	ピット	後期初	225号	G3	ピット	小中期
59号	C1~C4	ピット	後期初	224号	F3~F4	ピット	後期初	226号	A4	ピット	小中期
60号	C4	ピット	後期初	225号	F3	ピット	後期初	226号	C4	ピット	小中期
61号	C3~D3	ピット	後期初	225号	F3	柱穴	後期初	227号	G4	ピット	不規則
62号	D4	土坑	後期初~前	225号	F3	ピット	後期初	228号	G5~H5	堆土或構	子安
63号	D4	土坑	後期初~前	225号	F4	柱穴	中前期~後期初	229号	H5	ピット	中期末~後期初
64号	D4	ピット	中前期~後期初	225号	H3	ピット	中前期~後期初	229号	P5	ピット	中期末~後期初
65号	D4	ピット	後期初~前	226号	J3	ピット(穴?)	子安	231号	P5	ピット	中期末~後期初
66号	D3~D4	ピット	中前期~後期初	227号	F3~F4	ピット	後期初	232号	F4	ピット	中期末~後期初
67号	D3	土坑	中前期~後期初	228号	J3	ピット	後期初	233号	F3	ピット	中期末~後期初
68号	C3	土坑	後期初~前	229号	J3~J3	ピット	後期初	234号	E3	ピット	不明
69号	D3	ピット	後期初~前	230号	J3	ピット	後期初	235号	F4	柱穴	中期末~後期初
70号	D4	土器底或遺構?	後期初~前	231号	J3	土坑	中前期~後期初	236号	F4	ピット	中期末~後期初
71号	M1	ピット	後期初~前	232号	J3	土坑	中前期~後期初	236号	K5	ピット	中期末~後期初
72号	B1	ピット	後期初	233号	J3	柱穴	中前期~後期初	237号	J4	ピット	中期末~後期初
73号	B1~B4	土坑	後期初	234号	J4	ピット(柱穴?)	平型	238号	J4~J4	ピット	中期末~後期初
74号	B3	ピット	後期初	235号	J3	ピット(柱穴?)	平型	239号	E4	ピット	後期初
75号	B3	ピット	後期初	236号	F4	ラフスコ状土坑	後期初~前	240号	E3~F4	柱穴	中期末~後期初
76号	B3	ピット	後期初	237号	F4	柱穴	後期初~前	241号	F4	柱穴	中期末~後期初
77号	B4~B5	土坑	後期初~前	238号	D3	土坑	後期初~前	242号	F4~F4	柱穴	中期末~後期初

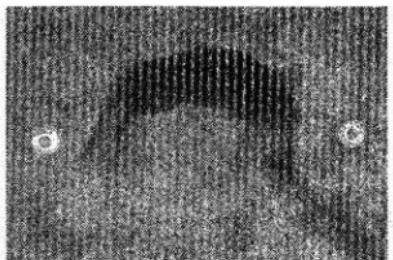


写真60 119号（北から）

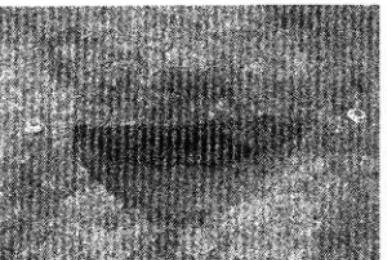


写真61 125号（南から）

#### 4-4-18 142・143・174・182・194号

調査区西部のE2～E5グリッドに位置し、同段階の遺構と考えられる土坑・ピット群である。これらの遺構より中期末葉～後期初頭の土器片等が出土しているが、中期末葉～後期初頭の住居跡（245号）や後期初頭の掘立柱建物跡（111～243号）を掘り込んでいることから、年代的には縄文後期初頭～前葉段階の遺構群と判断している。

なお、174号は覆土2層より後期初頭の土器片とともに、5～10cm程度の珪質貝岩の剥片が10点ほど検出されているが、人為的に埋め戻されたような覆土の状況と剥片のまとまりから埋納されたもの可能性があることが注目された。しかしこれが意味するところは不明である。  
(佐野)

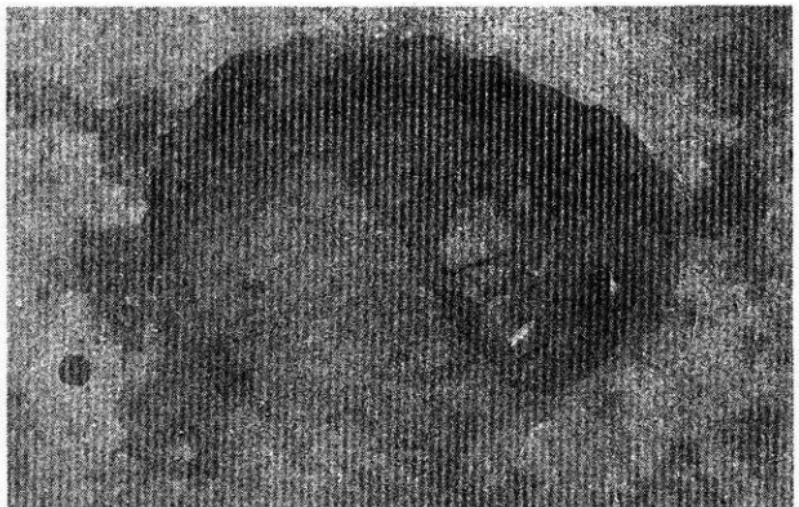


写真62 176号（北から）

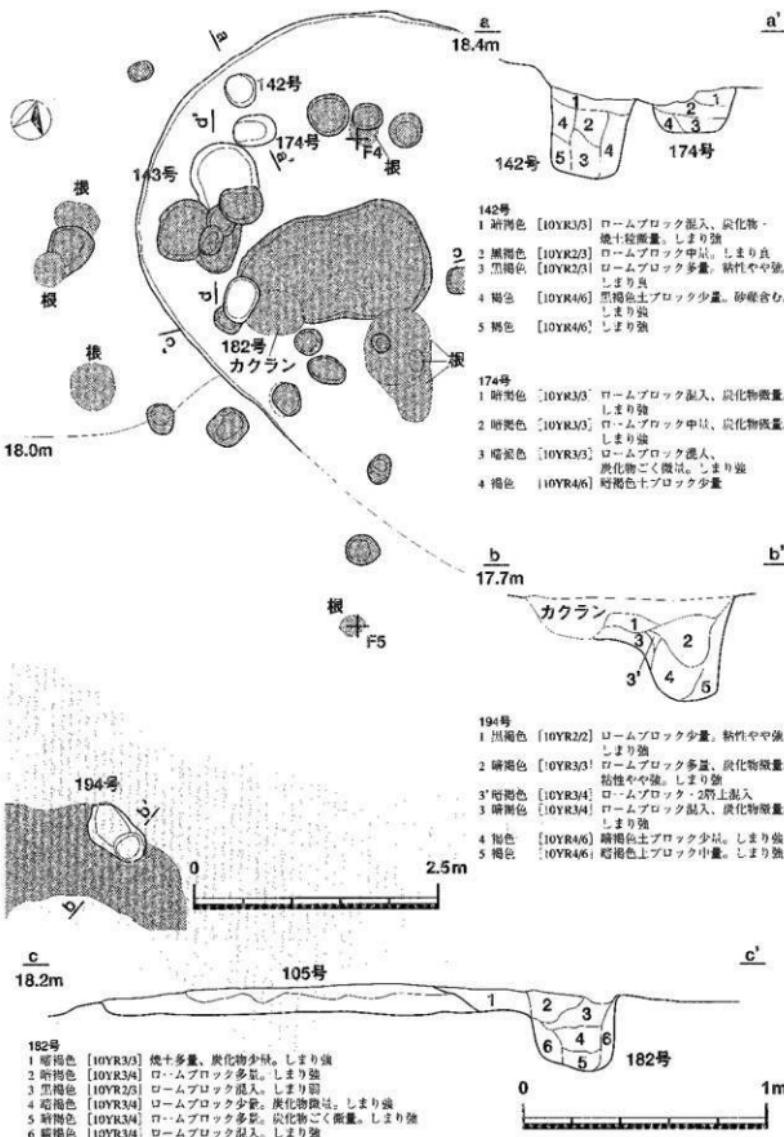


図83 142・143・174・182・194号

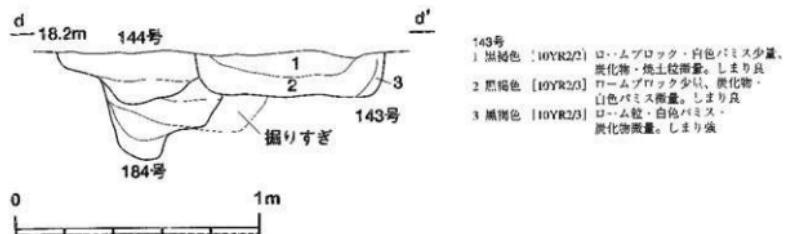


図84 143号 土層断面図

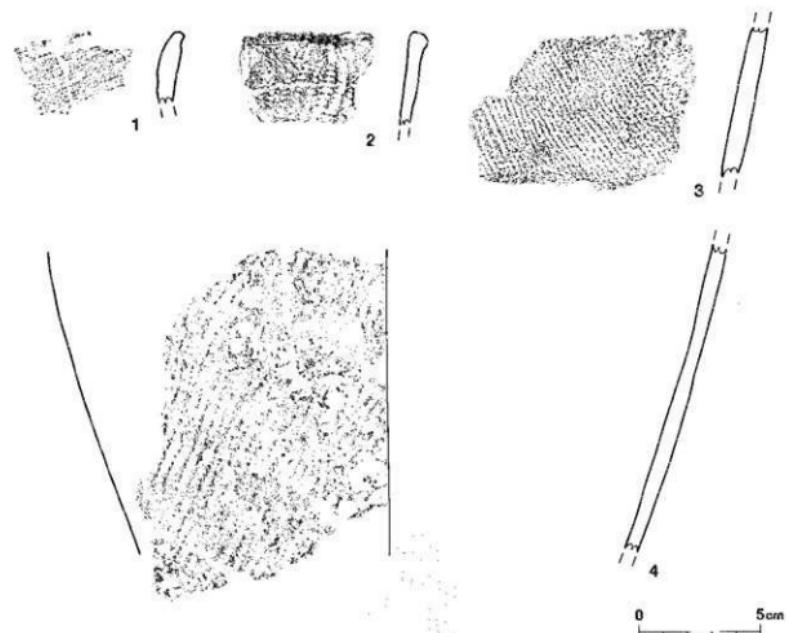


図85 140・143号 出土遺物

表24 140・143号 出土遺物観察表

No.	種別	器形	部位	遺構	層位	年代	型式	備考
1	縄文土器	深鉢形土器	口縁	140号	下層	後期初頭	—	—
2	縄文土器	深鉢形土器	口縁	143号	1層	中期末葉～後期初頭	—	—
3	縄文土器	深鉢形土器	腹	143号	2層	中期末葉～後期初頭	—	—
4	縄文土器	深鉢形土器	腹	143号	1層	中期末葉～後期初頭	—	—

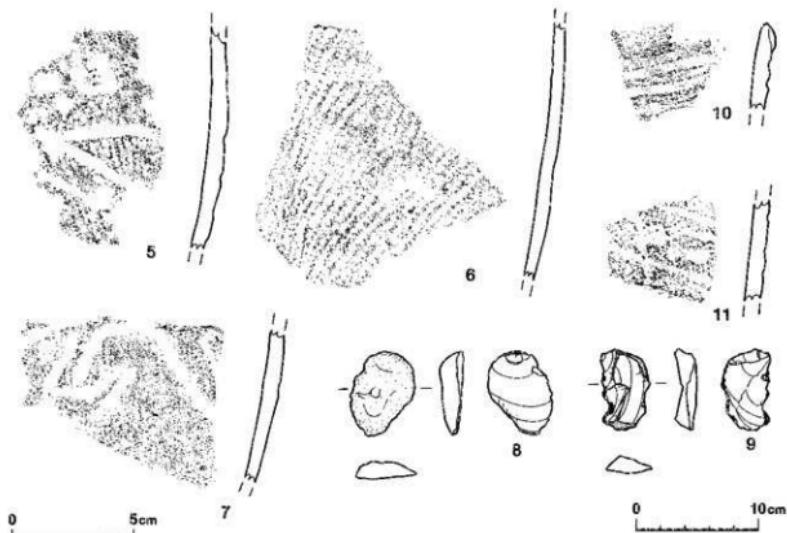


図86 174・194号 出土遺物

表25 174・194号 出土遺物観察表

No.	種別	器形	部位	遺構	層位	年代	型式・石材	備考
5	網文土器	深鉢形土器	胴	174号	2層	後期初頭	—	
6	網文土器	深鉢形土器	胴	174号	2層	後期初頭	—	
7	網文土器	深鉢形土器	胴	174号	2層	後期初頭	—	
8	石器	剥片	—	174号	2層	後期初頭	珪質頁岩	
9	石器	剥片	—	174号	2層	後期初頭	珪質頁岩	
10	網文土器	深鉢形土器	口縁	194号	上層	後期初頭	—	
11	網文土器	深鉢形土器	胴	194号	2層	後期初頭	—	

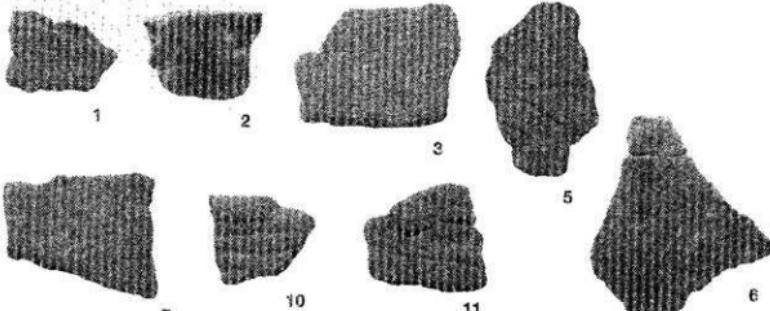


写真63 140・143・174・194号 出土遺物

#### 4-4-19 158~160・208号

調査区中央部付近のI3~J3グリッドに位置する遺構群である。近隣に位置し、覆土の色調が類似することから、同段階の遺構群として取り扱った。

遺物は、208号より中期末葉～後期初頭と考えられる土器片と剥片が出土している。

これらの遺構の機能・性格及び遺構間の相関関係等は不明であるが、覆土の色調から判断して、年代的には縄文後期初頭段階のものと推測している。

(佐野)

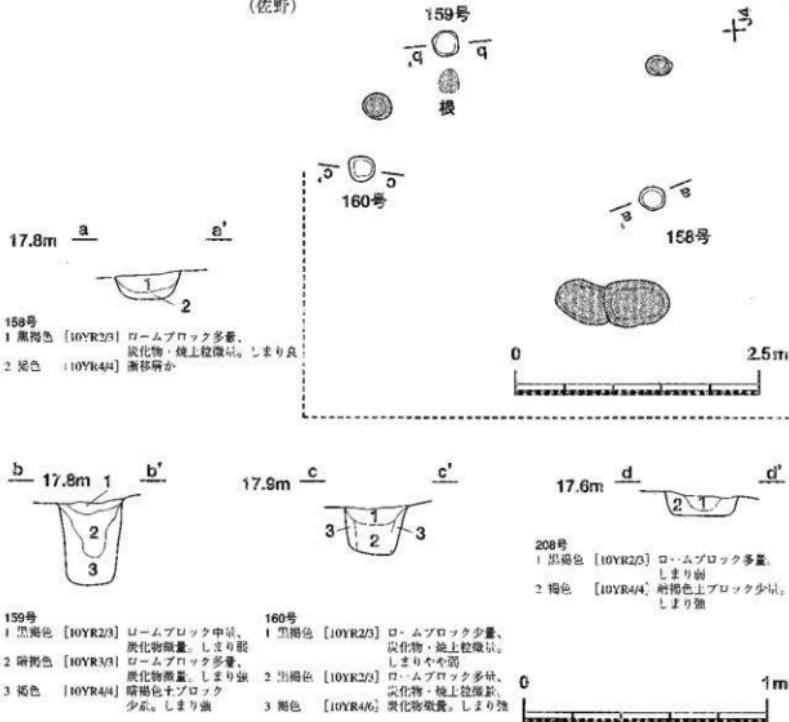


図87 158~160・208号

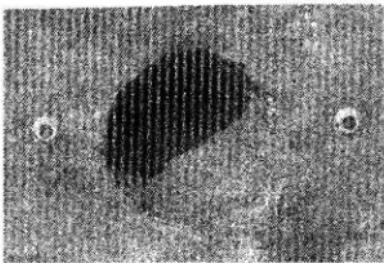


写真64 160号 (東から)

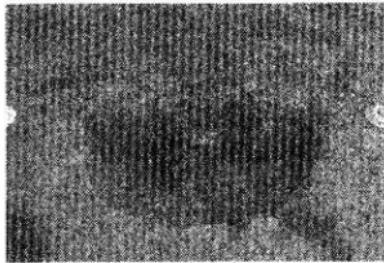


写真65 208号 (西から)



図88 208号 出土遺物



写真66 208号 出土遺物

表26 208号 出土遺物観察表

No.	種別	器形	部位	層位	年代	型式	備考
1	縄文土器	深鉢形土器	口縁	I層	中期末葉～後期初頭	—	外面炭化物付着

#### 4-4-20 166号

調査区西部の南端のF6～F7グリッドに位置するフラスコ状土坑である。地形的には北側から続く緩やかな勾配を持った平場が南に向かう傾斜面に移り変わる地点、地山標高16.5～16m程度のところに掘り込まれている。周囲に他の遺構はないが、後世に周囲が削平された可能性があり、元来単独で位置していたのかは不明である。

開口部は南北1.4m×東西1.3m程度の規模で、不整形の平面形状を呈する。開口部からの深さは1.5m程度で、底面の規模は東西1.4m×南北1.2mほどを測る。また底面東邊部壁際に、ピット（191号）が1基掘り込まれている。覆土は18層に分けられ、全体的にしまりが良いことや覆土最上層から出土した土器が中層・下層から出土した土器と接合すること等から、人為的に埋め戻された様相が窺えた。

遺物は、最上層～中層にかけて多く分布する傾向が見られ、後期初頭期の上器を中心としているが、一部後期前葉に及ぶのではないかと考えられる土器片も確認されたため、本遺構の紀年年代を後期前葉を下限とする、縄文後期初頭～前葉期と捉えている。

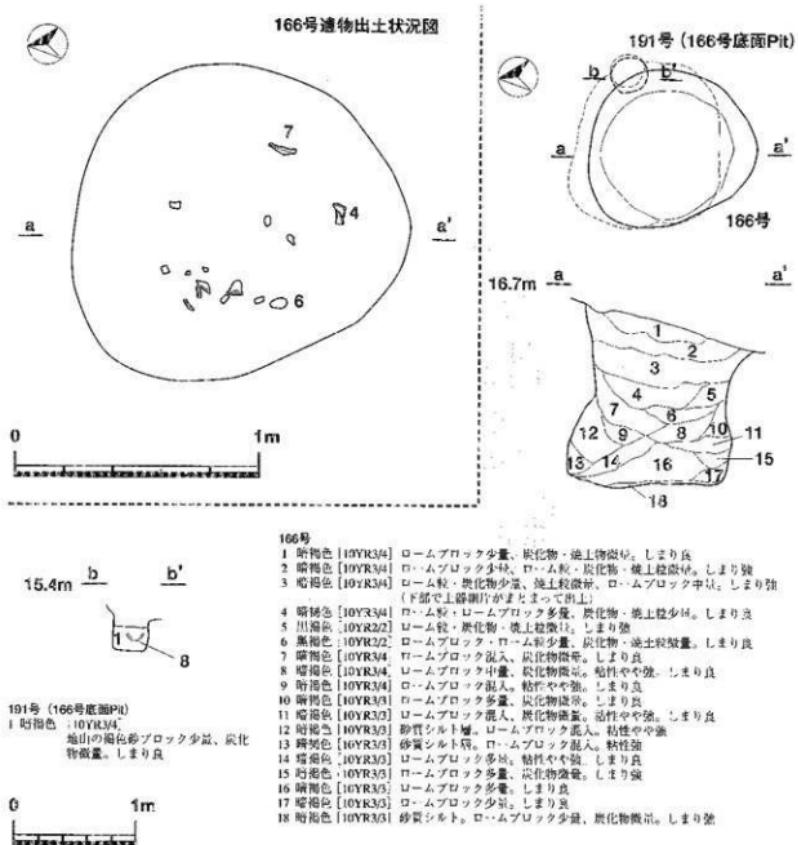
なお、底面に掘り込まれたピット（191号）より、胴部下半より上が人為的に打ち欠かれた後期初頭に比定される深鉢形土器の底部が、覆土上半に正立した状況

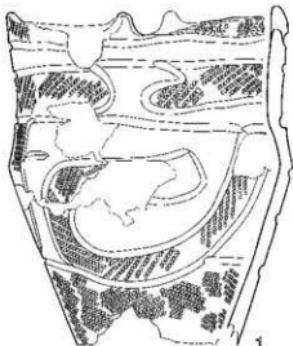
表27 166号に伴う遺構

番号	グリッド	種別	時代	備考
166号	F6～F7	フラスコ状土坑	後期初～前	166号の底面を 掘り込むピット

で埋設されているような格好で出土した（図91-8）。土器を観察すると、開口部内面と端部を中心に油を燃やした際につくようなスス（煤）の付着がみられたため、灯明具のような用途として使われたのではないかとも考えられた。フラスコ状土坑底面で人が作業・活動する際の灯りとして用いられたのだろうか。詳細は不明である。

このフラスコ状土坑の機能・性格については、前述した土器が灯明具であるならば、貯蔵穴として用途で使用されたのではないかとも考えられたが、詳細は明らかにできなかった。（佐野）





1



2



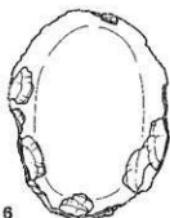
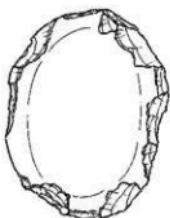
4



3



5



6



図90 166号 出土遺物①

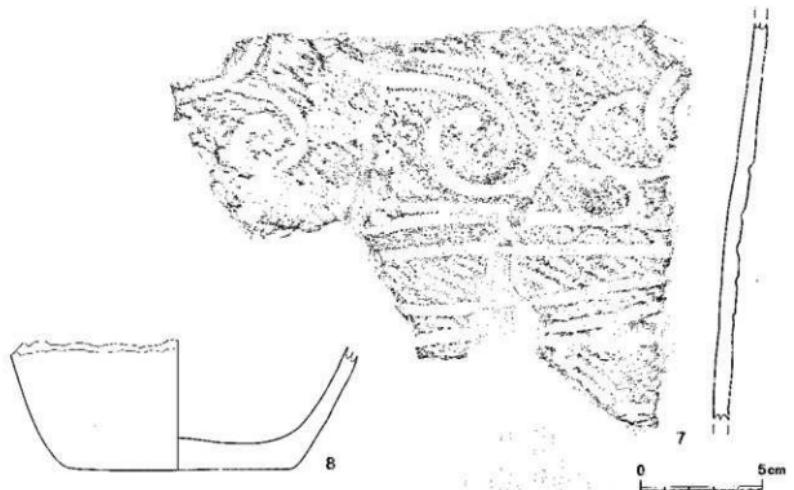


图91 166号 出土遺物②

表28 166号 出土遺物観察表

No.	種別	器形	部位	遺構	層位	年代	型式・石材	備考
1	縄文土器	深鉢形土器	口縁～胴	166号	1・3・4・15層	後期初頭～前葉?	—	
2	縄文土器	深鉢形土器	口縁～胴	166号	1層	後期初頭	—	
3	縄文土器	深鉢形土器	胴	166号	1層	後期初頭	—	
4	縄文土器	深鉢形土器	胴	166号	3層	後期初頭	—	
5	縄文土器	深鉢形土器	胴	166号	13層	後期初頭	—	
6	石器	敲石	—	166号	3層		花崗閃綠岩	
7	縄文土器	深鉢形土器	胴	166号	8層	後期初頭	—	
8	縄文土器	深鉢形土器	胴～底	191号	1層	後期初頭	—	内外面スス付岩

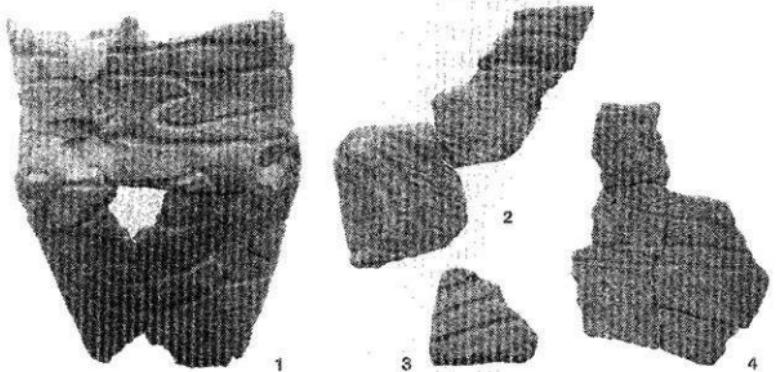


写真67 166号 出土遺物①

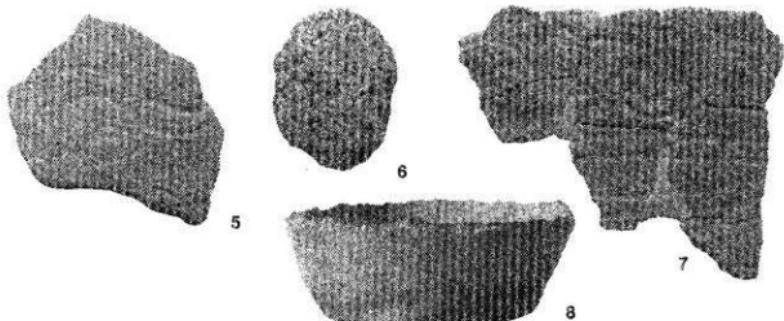


写真68 166号 出土遺物②

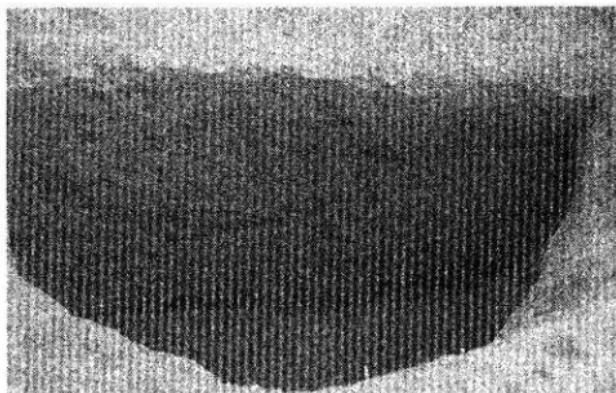


写真69  
166号 土層断面  
(西から)

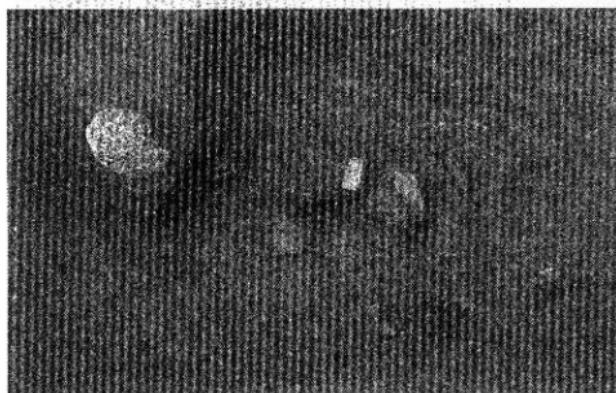


写真70 166号  
遺物出土状況  
(東から)

#### 4-4-21 188・190号

調査区西部北側のD 1 グリッドに位置する2基のピットである。両遺構とも出土遺物がないが近接することから、発掘調査時には同時期の遺構と考えていたが、色調等覆土の特徴を検討したところ、188号は縄文後期初頭～前葉、190号は後期初頭の遺構と推測された。遺構の機能・性格は不明である。(佐野)

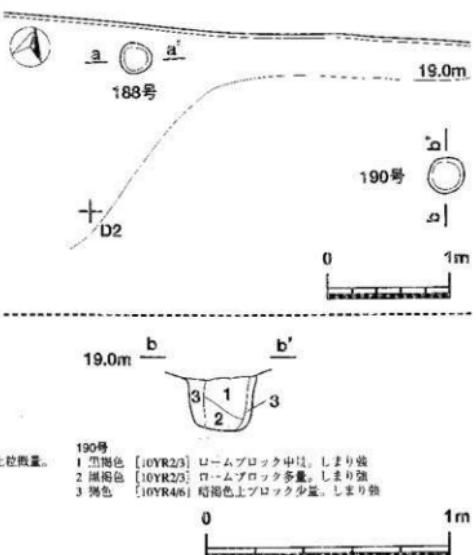


図92 188・190号

#### 4-4-22 249・250・262～264・266・268号

調査区中央部北側のK 3 グリッド付近に位置する7基のピットである。各遺構とも年代が知れるようないし出土遺物はないが、近隣に位置する遺構であるため、ここで一括して扱った。調査当時の所見では、これらを一括して後期初頭の遺構群と考えていたが、覆土の色調を再検討した結果、主に暗褐色を呈する264・266・268号は縄文中期末葉～後期初頭段階の遺構の可能性も考えられた。

なお、これらの遺構の機能・性格は明らかにできなかった。

(佐野)

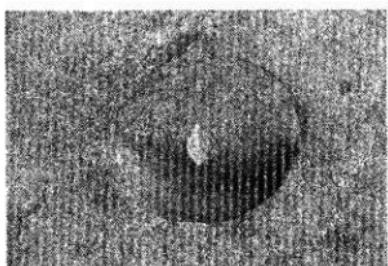


写真71 262号 (西から)

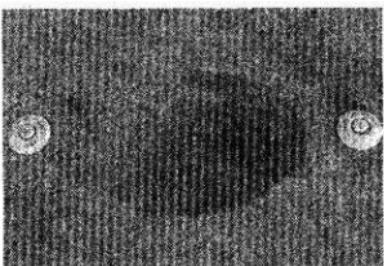


写真72 266号 (南から)

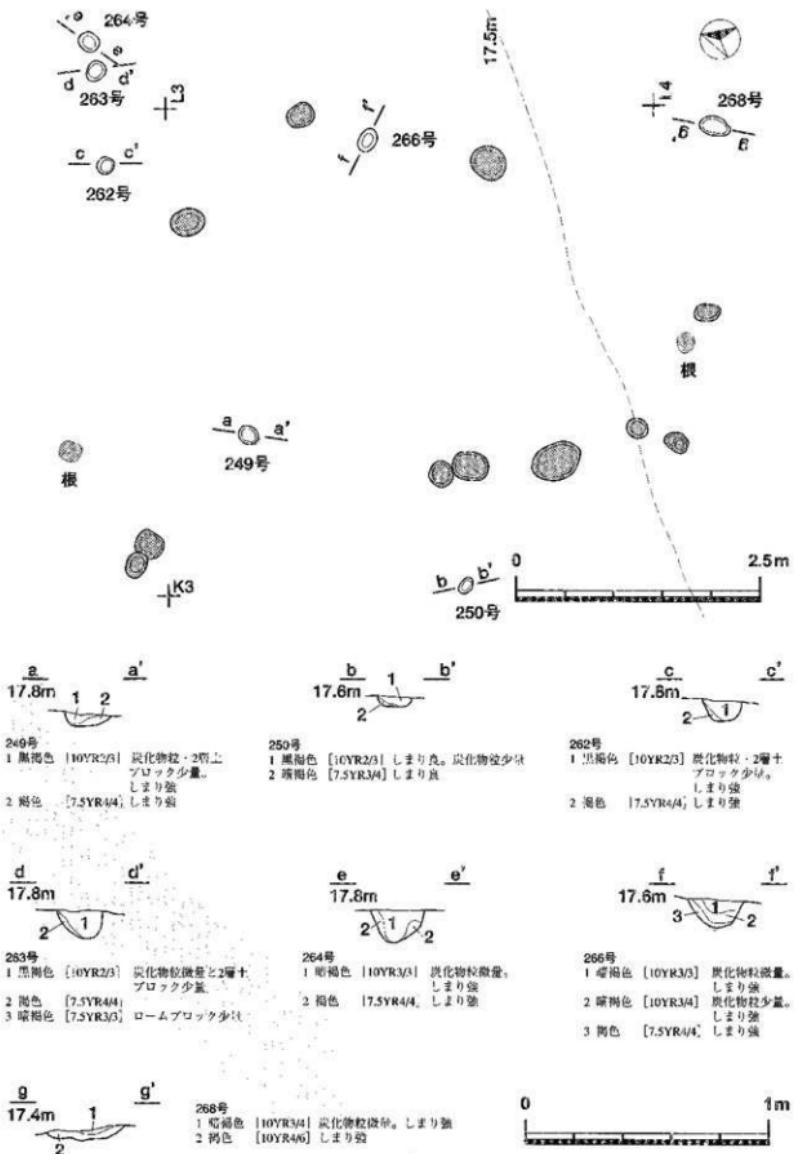
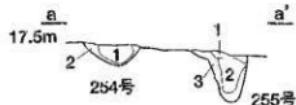


図93 249・250・262~264・263・266号

#### 4-4-23 254・255号

調査区中央部北側のK.3～K.4グリッドに位置する2基のピットである。遺物は出土していないが、覆土の色調から判断して、縄文中期末葉～後期初頭段階の遺構と推定している。なお、遺構の機能・性格は不明である。(佐野)



254号

- 1 黒褐色 [10YR3/3] 炭化物柱少量。しまり強
- 2 黄褐色 [7.5YR3/4] 炭化物柱微弱。

255号

- 1 黒褐色 [10YR3/4] 3切上ブロック少量、炭化物柱微弱
- 2 黄褐色 [7.5YR3/4] 3層七ブロック少量。
- 3 棕褐色 [7.5YR4/4] しまり強

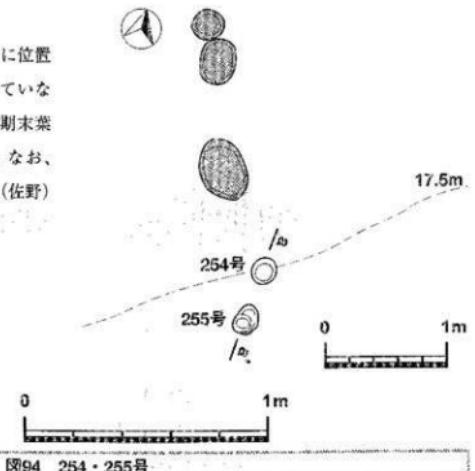
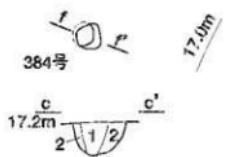
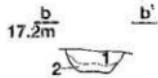
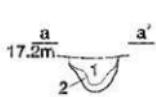


図94 254・255号

#### 4-4-24 269・334・381～384号

調査区中央部北側のL.4グリッドに位置する6基のピット群である。いずれの遺構からも遺物は出土していない。覆土の色調から、これらを縄文後期初頭の遺構群と考えているが、遺構間の相關関係、各遺構の機能・性格は不明である。(佐野)



269号

- 1 黒褐色 [10YR2/3] 2層土ブロック中量、炭化物柱少量。しまり強
- 2 棕褐色 [7.5YR4/4] しまり強

334号

- 1 黒褐色 [10YR2/3-3/2] ローム粘土混入、炭化物少量。
- 2 棕褐色 [7.5YR6/8] 1層土混入。しまりの強い粘土層

382号

- 1 黒褐色 [10YR3/2] ローム粘土ブロック混入、炭化物少量、根痕多。しまりの強い粘土層
- 2 棕褐色 [7.5YR6/8] 1層十混入するローム粘土層。しまり強

334号

- 1 黒褐色 [10YR2/3-3/2] ローム粘土混入、炭化物少量。
- 2 棕褐色 [7.5YR6/8] 1層土混入。しまりの強い粘土層

383号

- 1 黒褐色 [10YR2/3] ローム粘土混入、炭化物少。しまりや弱
- 2 棕褐色 [7.5YR6/8] 黑褐色土混入、ローム粘土。しまり良

381号

- 1 黒褐色 [10YR2/3] ローム粘土混入、炭化物少量。しまりの強い粘土層
- 2 棕褐色 [7.5YR6/6] グラナ化した黒褐色土混入。しまりの強い粘土層

384号

- 1 黒褐色 [10YR2/3] 2層土ブロック中量
- 2 棕褐色 [7.5YR4/4] しまり良

図95 269・334・381～384号